

JETRO

日本貿易振興機構(ジェトロ)

ブラジルにおける
スタートアップ・エコシステム調査

2021年8月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

目次

1. サンパウロを中心としたブラジルのスタートアップ・エコシステムの概要.....	1
2. ブラジルのエコシステムにおける主要なステークホルダー.....	5
(1) ブラジル連邦政府、自治体、政府関連機関	5
(2) 大学、研究機関	11
(3) 民間企業のスタートアップ支援関連サービス	12
(4) 海外政府系機関	15
3. ブラジルにおける IT 分野の産業集積地	17
4. ブラジルにおけるスタートアップ企業の産業集積地.....	19
5. ブラジルにおけるスタートアップ企業の現状.....	21
(1) アメリカに上場した IT・スタートアップ企業.....	21
① パグセグロ (PagSeguro)	21
② ストーン (Stone)	22
③ シースペー・インヴェスチメントス (XP investimentos).....	23
④ アルコ・エドウカサオン (Arco Educação).....	24
(2) ブラジルに上場した IT・スタートアップ企業.....	24
① ロカウェブ (Locaweb)	24
② エンジョエイ (Enjoei)	25
③ メリュズ (Meliuz)	25
④ トットス (Totvs)	26
⑤ ポジティボ・テクノロジー (Positivo Tecnologia)	26
⑥ リンクス (Linx)	27
⑦ ネオグリッド (Neogrid)	27
(3) 未上場で大規模調達した企業	28
① ノビノビ (99)	28
② ヌーバンク (Nubank)	29
③ コンタアズウ (ContaAzul)	30
④ アイフージ (ifood)	30
⑤ ジムパス (Gympass)	31
⑥ ネオン (Neon)	32
⑦ ロggi (Loggi)	32

⑧	マデイラ・マデイラ (Madeira Madeira)	33
⑨	クレジタス (Creditas)	33
⑩	メルカドビットコイン	34
⑪	C6BANK	34
⑫	WILDLIFE	35
6.	ブラジルにおけるアクセラレータの現状	36
(1)	リーガ・ベンチャーズ (Liga Ventures)	36
(2)	ワウ・アクセラドローラ・ヂ・スタートアップス (Wow Aceleradora de Startups)	36
(3)	ダーウィン (Darwin)	37
(4)	ベンチャー・ハブ (Venture Hub)	37
(5)	全国のアクセラレーター一覧	37
7.	サンパウロのインキュベーションセンター、コワーキングスペース、シェアリングオフィスの現状	39
(1)	企業によるエコシステム支援としてのコワーキングスペース	39
(2)	政府機関によるインキュベーション・コワーキング支援	41
(3)	コワーキングスペース・シェアリングオフィス自体を本業とする企業	42
8.	ブラジルにおけるベンチャー・キャピタルの現状	44
(1)	ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド (SoftBank Latin America Fund)	44
(2)	モナシーズ (Monashees)	45
(3)	カゼッキ・ベンチャーズ (Kaszek Ventures)	45
(4)	ヘッジポイント・イーベンチャーズ (Redpoint eventures)	45
(5)	アステラ・インベスチメントス (Astella Investimentos)	46
(6)	インベスト・テック (Invest Tech)	46
(7)	ペルフォルマ・インベスチメントス (Performa Investimentos)	46
(8)	ブラジル・ベンチャー・キャピタル (Brazil Venture Capital)	47
(9)	その他のベンチャー・キャピタル	47
9.	ブラジルにおける外資系ベンチャー企業・スタートアップ企業の成功事例	50
(1)	米国・南米の IT 関連企業の進出状況	50
(2)	日本企業によるブラジルの IT 関連企業への出資状況	52
10.	サンパウロにおける主なスタートアップ向けイベント情報、情報媒体	54
(1)	スタートセ (StartSe) の主催イベント	54
(2)	エヒ・デ・サミット (RD Summit)	54
(3)	ケース (CASE)	54

(4) ABVCAP(ブラジル・プライベートエクイティ・ベンチャー・キャピタル協会)主催イベント..	55
(5) テックスターズ・スタートアップ・ウィークエンド (Techstars Startup Weekend)	55
(6) ブラジル・ジャパン・スタートアップ・フォーラム(Brazil Japan Startup Forum).....	55
(7) 100 オープンスタートアップ (100 Open Startups) の主催イベント	55
(8) チャイナ・デイ (China day)	56
(9) スーパーロジカ・エクスペリエンス (Superlógica Xperience).....	56
(10) 各アクセラレータの開催イベント、ホームページ、ニュースレター.....	56
11. 最近のブラジル規制・政府関連動向	57
(1) スタートアップ法 (Marco Legal das Startups)	57
(2) 中銀主導の即時決済システム「ピックス」 (PIX)	57
(3) 有限会社の規制変更	58
12. ブラジルのエコシステムのポテンシャル	59

1. サンパウロを中心としたブラジルのスタートアップ・エコシステムの概要

ブラジルは2019年GDP規模で世界12位(世銀、2021年8月時点、ドルベース名目額)、ブラジル経済省貿易統計 COMEX STAT では2020年のブラジルから日本への輸出額は6位、日本からブラジルへの輸入額も6位となっており、貿易分野の結びつきも強い。PwCの予測によると、世界のGDPランキングでブラジルは2030年に6位、2050年には5位になると予測されている¹。同予測では2050年には日本はGDPで世界7位とされており、日本の経済規模を上回るポテンシャルを持っている数少ない国の一つである。

スタートアップの分野では、近年大きな成功を遂げるスタートアップがブラジルから出始めている。2017年にシースペー・インヴェスチメントス(XP Investimentos)が現地主要金融機関の一つであるイタウ(Itaú)銀行の出資を受けたのを皮切りに、2018年には決済機器のpag・セグロ(PagSeguro)やストーン(Stone)、教育コンテンツを提供するアルコ・エドゥカソン(Arco Educação)、が米国に上場し、タクシー配車アプリを提供するノビノビ(99)が中国の滴滴出行に買収された。オンラインバンクのヌーバンク(Nubank)やフードデリバリーのアイフージ(ifood)が複数の投資ファンドから出資を受けた。2019年、2020年もこの傾向は続き、100億円を超える資金調達が多くなっていった。その結果、2021年3月時点で計11社が時価総額10億円を超えている。2020年にはブラジルを代表するサンパウロ株価指数のBOVESPAへの上場企業数が増加し、中にはテクノロジーをベースにしたスタートアップ企業も含まれる。この背景を理解するにはA:魅力的なマーケット、B:ITでのサービス民主化、C:リープフロッグという3つの観点からブラジル市場を見ていく必要がある。

A: 魅力的なマーケット

ブラジルはスタートアップのサービス提供先として巨大なマーケットを擁する。冒頭に述べた世銀統計で見ると人口は2億人を超え世界6位、GDPではイタリアとカナダの間に位置する。また、国連人口統計によればブラジル人の平均年齢は33歳と若く、今後の人口増も期待できる。さらに、1人当たりGDPはまだ1万ドル弱で成長が期待できる。インターネットの普及率も70%弱と高く、インターネットユーザー数は世界4位の1.4億人(インターネットライブスタツ調べ)。ピューリサーチセンターの調査²によるとスマートフォンの普及率も日本と同水準である。オンラインショッピングについてはまだ普及の途中にあり、スタティスタの調べではBtoCの購入額で世界9位³。今後の継続的な成長が見込まれる。

B: ITでのサービス民主化

上述のとおり魅力的な市場環境に、国内外から次々とIT関連企業が参入しているが、テクノロジーにより様々なサービスを享受するようになったのは低中所得層を含む一般市民や中小企業、個人経営者である。

¹ PwC (2017) *The World in 2050: How will the global economic order change?*

² Pew Reserch Center (2019) "Smartphone Ownership Is Growing Rapidly Around the World, but Not Always Equally". <https://www.pewresearch.org/global/2019/02/05/smartphone-ownership-is-growing-rapidly-around-the-world-but-not-always-equally/>

³ <https://www.statista.com/statistics/377624/leading-countries-retail-e-commerce-sales/>

テクノロジーが普及する前はサービス提供者である企業側のコスト構造の問題から、様々なサービスは富裕層や大企業を中心に提供されてきた。この背景には貧富の差の大きさと寡占市場による競争の少ない市場環境という構造上の問題がある。

ブラジル地理統計院 (IBGE) の 2019 年データによれば、ブラジルの労働人口の半数の月収は、最低賃金に達しない 2 万円強であるのに対して、上位 1% の富裕層の平均所得は月間約 70 万円で約 34 倍もの開きとなっている。また、リオデジャネイロ州商業連盟等の調べでは、2015 年に銀行口座の所有者は人口の約 64% にとどまり⁴、信用調査会社 SPC ブラジルによれば 2015 年時点のクレジットカード所有者は 5,200 万人と人口の約 25% である⁵。

しかし、スタートアップはテクノロジーを利用して低コストでサービス提供することで、これまで大手企業がコスト的に合理性を欠くなどの理由で対応できなかった低所得者層や、中小企業や個人事業主にサービスを提供しても適正な利益を得られる状況を作り上げている。

C: リーフログ

リーフログとは、技術やサービスが過去に、先進国で発展してきたような段階を超えて、一気に最新のサービスが普及することを言う。ブラジルはこれまで新興国として、前述したように限定的なサービスが提供されてきたが、テクノロジーの普及で最新のサービスが一般市民に一気に普及するリーフログ現象が起きている。

例えば、自動車を買うことができなかった層では、ライドシェアの普及で自動車所有の必要性自体が低下している。また、手数料や所得、店舗立地の問題などで銀行口座を持てなかった層に、アプリケーションとカードだけで決済、貯蓄、ローンといった銀行と同様のサービスが、実店舗を持つ銀行以上の利便性で提供されている。さらには、中小企業や個人事業主が、これまで高い費用を払って受けてきた会計・経営分析が、月間数千円レベルの費用のクラウドサービスを利用することで、速やかに質の高い分析を見られるようになっている。

上記の状況を踏まえ、ブラジルのスタートアップ・エコシステムはこの数年で大きな発展を遂げた。その発展の特徴は、第一に、スタートアップ企業向けの資金提供が年々増強されている点である。政府系金融機関も様々な形で起業のサポートとなる金融支援を進めてきた。アクセラレータ(ビジネスプランはあるが会社を設立していないような段階のチームを育てる企業)と共に、ビジネスプランを選定し資金提供を行う「スタートアップ・ブラジル(Start-Up Brasil)」(第 2 章参照)は一定の成果を収め、ベンチャー・キャピタルに対する LP(リミテッド・パートナーシップの略)投資として政府系金融機関による民間投資ファンドへの出資も行われてきた。2018 年の新たな動きとしてはこうしたアクセラレータとベンチャー・キャピタルの間からこぼれ落ちてしまう、シードステージと呼ばれるフェーズに特化したファンド組成を政府が促すシード企業エンジェル協調投資ファンド(第 2 章参照)も業界では大きな話題に上った。ベンチャー・キャピタルによるスタートアップへの投資額は 2019 年に前年比 91% 増⁶と大きく伸びている。後述するエンジェル投資家向けの制度改善もあり、今後も資金流入は拡大が見込まれる。

発展の特徴の第二に、起業しやすい各種のサポート、サービスの充実が挙げられる。第 6 章で詳述するが、ビジネスプランの段階で投資、経営サポート、さらにはオフィスの提供まで行う

⁴ <http://agenciabrasil.ebc.com.br/economia/noticia/2015-07/populacao-brasileira-com-conta-bancaria-atinge-863-milhoes-de-pessoas>

⁵ <https://www.spcbrasil.org.br/pesquisas/pesquisa/936>

⁶ <https://acestartups.com.br/cenario-venture-capital-brasil-2020/>

アクセラレータのプログラムはウォウ(WOW)等により数多く運営され、特に大手企業がスポンサーとなっているテーマ別のアクセラレータプログラムもバスフ(BASF)、アイ・ビー・エム(IBM)、ビザ(VISA)等のグローバル企業によるものや、ビーテージュー・パクチュアル(BTG Pactual)、ゴウ(GOL)などのブラジルの大手企業によるものも含めて実施されている。スタートアップ企業と何らかの形で連携したいグーグル、イタウ銀行、ブラデスコ銀行等の大企業がスタートアップとの物理的な距離を縮めるためのスペースを低価格、場合によっては無償で提供している。また、米国系の IT 企業大手アマゾンやグーグルが今後成長するスタートアップを早い段階で囲い込むべく、クラウドベースの IT 開発環境や AI を利用したサービス開発環境を低料金で提供している。

過去に成功している IT 企業が各種サービスを低料金で提供していることもスタートアップ企業の後押しとなっている。名刺などの制作物やウェブサイトはプリンチ(Printi)等のサイトでクラウドソーシングによって簡単にデザインが可能で、オンデマンド印刷も廉価で利用できる。クラウドベースの会計サービスもコンタ・アズウ(ContaAzul)等が提供しているものであれば月額数百リアル(数千円程度)で利用できる。

業種にもよるが、一般的に国内で調達した資本で会社を設立する場合、最低資本金が定められていないため、容易に会社を設立し、コワーキングスペースで働きながら、クラウド上でサービス開発を行い、会計サービスもオンラインで利用し、デザインが必要なならフリーランスのデザイナーを簡単に見つけられる、といった環境が整っている。

発展の特徴の第三に重要なものは、企業に関する情報量の増大である。様々な企業・団体が其々のイベントでスタートアップについての啓蒙活動を行っており、新型コロナウイルス感染拡大以降もその勢いは増している。。また、米国を中心にスタートアップ企業に関する様々な経営手法や資本政策の考え方がインターネット上で無償提供されている。

第四に多くの成功事例が出ていることが挙げられる。これまでは2014年のブスカペ(Buscapé)が約500億円で南アフリカのナスパーズ(Naspers)に買収されたのが独立系のスタートアップの成功事例として有名であったが、以降、そこまでの規模感に匹敵する成功事例は出ていなかった。しかし、2017年後半から2018年にかけて、大型のエグジット(上場やM&Aにより創業者やベンチャー・キャピタルが投資した資金を回収する方法)が相次ぎ、ニューヨーク証券取引所に上場を果たしたパグ・セグーロ(PagSeguro)のような企業も出現した。その勢いは衰えることなく、2019年にはシースペー・インヴェスチメントス(XP Investimentos)がNASDAQに上場し⁷、2020年にはブラジル国内証券市場に上場するIT企業・スタートアップ企業も出始めた。ネットベンチャー企業、ロカウェブ(Locaweb)⁸、キャッシュバックサービスのメリユズ(Meliuz)、販売仲介事業企業のエンジョエイ(Enjoei)⁹はその一例である。2021年にはビテックス(VTEX)もニューヨーク証券取引所でのIPO(新規株式公開)を果たした。

⁷ <https://www.nasdaq.com/articles/xp-prices-brazils-largest-ipo-this-year-reaches-%2414.9-bln-valuation-2019-12-10>

⁸ <https://distrito.me/ipo-startups/>

⁹ <https://www.infomoney.com.br/negocios/apos-ipos-de-meliuz-e-enjoei-o-movimento-de-startups-na-bolsa-deve-crescer-diz-socio-da-monashees/>

ブラジルは社会問題が多い国である。裏を返せば、起業家にとってのビジネスチャンスがそれだけあるということでもある。今後どのようなさらなる発展を見せるのか、注目に値する市場と言えるだろう。

2. ブラジルのエコシステムにおける主要なステークホルダー

(1) ブラジル連邦政府、自治体、政府関連機関

① 起業優遇

ブラジルでは複雑な行政手続きの存在、特に税制については、連邦・州・市がそれぞれ徴税主体となり、取引様式により複数の税種が存在し、税率も業種や取扱品目別毎に規定され計算が大変複雑になっている。そのため、規則に則って納税するための業務そのものが企業活動上の大きな負担となってきた。その結果、個人事業主やスモールビジネスのオーナーが正式な企業登録を伴わず、適切に納税を行わない、主に零細業者を中心に形成されるインフォーマル経済が存在し、その解消が現在でも大きな課題となっている。

こうした経済活動主体を法人として設立することを促進し、税制の簡素化を図る優遇措置は1996年に導入されたが、ここではあくまで徴税主体となる連邦・州・市がそれぞれ個別の簡易税制を設けていただけであった。この簡易税制を統一し、連邦・州・市が定める複数の税金を個別ではなく1度にまとめて納付できるようにしたのが、シンプレス・ナシオナウ(Simples Nacional)と呼ばれる税制である。冒頭に述べたように、インフォーマルの経済活動から正式経済への転換を促進し、政府による税の補足を容易にして税収増を図るのがこの制度の導入目的の1つであったものの、税制を分かりやすくし税務負担を軽減するメリットを企業に与えたという点で、政府の起業支援策として捉えることもできる。

この制度は2006年に憲法の補完法第123号¹⁰(通称「Simples法」)の制定により設けられたものである。つまりブラジルで制度面から法人設立を容易にする環境が整えられたのは、この10年余り間のことであったと言える。2017年には零細・小企業の86%がシンプレス・ナシオナウを採用しているとされ¹¹、スタートアップに限らず、法人格を有する個人事業やスモールビジネスではこの税制を選択するのが一般的となっている。この優遇措置が適用される企業は、売上高に応じて次のように区分される。

- ・ 個人零細事業主(MEI)：指定された業種に該当し、かつ年間売上高 81,000 レアル未満
- ・ 零細企業(ME)：年間売上高 360,000 レアル未満
- ・ 小企業(EPP)：年間売上高 4,800,000 レアル未満

このうち毎月一定額を納めるMEIを除くと、MEとEPPには売上高を課税標準とした業種別税率が売上高区分に応じて4~33%の間で定められている。これは業種別にみなし利益率を想定して売上高に課税するものであるため、実際に発生した利益に対して課税する実質利益方式ではない。スタートアップの事業形態によってはビジネスの立上げ初期から利益が発生しない場合もあるため、この税制の適用を選択せず、実質利益方式で法人所得税等を納付することが望ましい場合もある。

なお、このカテゴリーの企業向けの税制面以外の優遇策としては、商品輸出に簡易手続きが認められる¹²ほか、公共入札での受注機会の拡大を目的として優先発注の対象とすることが定められている。また金融機関にも、これら企業カテゴリー向けに一定の融資を行ない、その際の手続きを簡素化する義務が課せられている¹³。

¹⁰ http://www.planalto.gov.br/ccivil_03/LEIS/LCP/Lcp123.htm

¹¹ <http://datasebrae.com.br/simples-nacional/#proporcao>

¹² <http://www.aprendendoaexportar.gov.br/index.php/simples-exportacao>

¹³ Lei Complementar N° 123/2006, Art. 58, § 2°, http://www.planalto.gov.br/ccivil_03/Leis/LCP/Lcp123.htm

バックオフィスの大きな負担なくブラジル法人が運営できることは、日本のスタートアップの進出にあたって好ましい環境が整ってきたと言える。

その他の会社形態として、有限会社 (LTDA) と株式会社が挙げられる。有限会社の場合、2019年9月より個人有限会社 (SLU) として個人で立上げ出来るようになり¹⁴、最低資本金の制限もない。

また、ブラジルの上場・未上場株式会社は年度財務諸表を大手新聞に公告する義務が付けられていたが、2019年4月に株式会社法の改正により、インターネットのみで公告が可能となる。それに伴い、いままで広告不要の対象であった、資本金 1,000,000 レアル未満及び株主 20 人以下の未上場株式会社は、10,000,000 レアル未満まで拡大される。同改正は 2022 年 1 月より施行¹⁵。

② スタートアップに対する公的金融機関からの支援策

ブラジル連邦政府が実施するベンチャー支援プログラムの中で最も存在感があるのは、科学技術革新省 (MCTI) の全国スタートアップ・アクセラレーションプログラム、スタートアップ・ブラジル¹⁶である。技術力をベースとした新興企業であるスタートアップを、国内のアクセラレータの協力の下で支援する目的で設けられた。プログラムの運営はブラジル・ソフトウェア産業改善促進協会 (SOFTTEX) に委託されている。実施フェーズは、次の 3 つに分けられている。

(1) スタートアップのアクセラレータを公募(原則として半期毎に 1 回実施)

(2) 国内外の対象スタートアップを公募(原則として半期毎に 1 回実施。海外スタートアップの参加は参加企業の 25%を上限に認められており、過去にはアメリカから 8 社、ドイツ、中国、チリ、アルゼンチン、コロンビア、エクアドル、アイルランド、イタリア、メキシコ、ペルー、ウルグアイから各 1 社が参加している)

(3) 12 カ月間のアクセラレーションプログラムの実施

アクセラレーションの過程では、スタートアップは最大 20 万レアル (1 レアル=約 20 円、約 400 万円) までの研究開発奨励金を受け取ることができるほか、人材育成や顧客・投資家との関係構築、国際的なスタートアップハブへの参画といった様々な活動に参加できるようになる。また、スタートアップへの資本参加と引き換えにアクセラレータによる投資や、インフラ支援、メンターサービスを受けることができる。対象となるスタートアップで就業する外国人研究者には、最長 12 カ月間の滞在ビザの発給も認められる。

2013 年に 2 期、2014 年に 2 期の計 4 期が開催され、2017 年 10 月に 5 期の募集が完了している。通算の応募総数は累計で 3,315 件、229 のスタートアップがプログラムによる支援を受けており、参加するアクセラレータの数は 17 となっている。詳細はスタートアップ・ブラジル公式サイト (<https://www.startupbrasil.org.br>) から確認できる。

- ・ 国立経済社会開発銀行 (BNDES) のシード企業エンジェル協調投資ファンド (FIP Capital Semente)

¹⁴ https://www.sebrae.com.br/sites/PortalSebrae/ufs/sp/conteudo_uf/quais-sao-os-tipos-de-empresas,af3db28a582a0610VgnVCM1000004c00210aRCRD

¹⁵ <https://www.camara.leg.br/noticias/556400-sancionada-lei-que-dispensa-de-publicacao-balancos-de-empresas-com-ate-r-10-milhoes/>

¹⁶ <https://www.startupbrasil.org.br/>

ブラジル連邦政府のシード・ファイナンス・プログラムとしては、政府系金融機関である国立経済社会開発銀行(BNDES)によるシード企業エンジェル協調投資ファンド¹⁷の創設が注目される。

これは、企業向け融資やインフラ案件融資を行う国立経済社会開発銀行(BNDES)グループの中でも、企業投資を行う BNDESPAR が取り組んでいるもの。ブラジル社会経済開発銀行はエンジェル投資家・アクセラレータの投資額と同額の協調投資を行なうため、スタートアップにはエンジェル投資家からの投資金額の 2 倍の投資を受けられることになる。国立経済社会開発銀行(BNDES)はこうしたインセンティブを通じて、ブラジルにおけるエンジェル投資文化の定着とイノベーションシステム全体の発展を目指す。投資先の優先分野としては、アグリビジネス、バイオテクノロジー、スマートシティ、創造経済、ナノテクノロジー、新素材、医療、IT・通信分野が定められている。

このプログラムでは民間ファンド運営企業が 1 億リアル規模のファンドを組成することを想定しており、BNDESPAR が組成した投資ファンド総額の 3 分の 2 を拠出する。第 1 ステージとして、年間売上高が 100 万リアルまでのスタートアップ、第 2 ステージとして、年間売上高が 100 万リアルから 1,600 万リアルまでの小企業を投資対象としている。

第 1 ステージにあたるスタートアップへの初期投資額は 50 万リアルまでとするが、同ファンドからの拠出と同等額の出資をアクセラレータやエンジェル投資家から受けることが条件となる。第 1 ステージで顕著な成長が認められたスタートアップ、もしくは、第 2 ステージにあたるスタートアップは 500 万リアルまでの投資を受けられるようになる。

2017 年 11 月にファンド運営企業の公募が行われ、15 社が応募した。最終的にドモ・インベスト(Domo Invest)が運営企業に選定され、ファンドの資金獲得を行なっている。なお、ドモ・インベスト(Domo Invest)は既に 20 社程度までのスタートアップ投資を目的とした 1 億リアルの独自ファンドを設立・運営しており、消費者向けの無担保ローンを提供するノヴェルデ(Noverde)に 400 万リアル、保護者向けの学校関連行事や連絡プラットフォームのアジェンダ・エドゥ(agendaEdu)に 300 万リアルを出資している。

・ 国立社会経済開発銀行のアクセラレーション・プログラム (BNDES Garagem)

ブラジル社会経済開発銀行はアクセラレータを起用したスタートアップ支援プログラムも創設している。BNDES Garagem¹⁸と呼ばれるこの取組みは、スタートアップによる顧客・資金獲得、商品やビジネスモデルの市場への適合を支援するもので、スタートアップは無料かつ資本参加を受ける必要なくプログラムへの参加が可能となる。

リオデジャネイロ市内の国立社会経済開発銀行本部に近いコワーキングスペース、ウィーク(WeWork)で実施され必要なインフラが提供されるとともに、同銀行とスタートアップが市場や技術に関する知識交換、投資ファンドや潜在顧客との交流を密接に行えるよう配慮されている。アクセラレーション期間は 12 カ月間。

2018~19 年、プログラム第 1 回目は開催され、対象分野は、国立社会経済開発銀行の戦略分野でもある教育、医療、安全、ファイナンスソリューション、創造経済、環境、ブロックチェーン技術、IoT となった。応募したスタートアップ企業 5,000 社のうち選定された 74 社が二つのモジュールに分けられ、創業モジュール(Módulo Criação)は、本格的にまだビジネス実績は

¹⁷ <https://www.bndes.gov.br/wps/portal/site/home/mercado-de-capitais/fundos-de-investimentos/chamadas-publicas-para-selecao-de-fundos/fip-capital-semente-coinvestimento-anjo>

¹⁸ <https://www.bndes.gov.br/wps/portal/site/home/imprensa/noticias/conteudo/programa-de-apoio-ao-desenvolvimento-de-startups-bndes-garagem-define-aceleradora>

ないが MVP（実用最小限の製品）開発中のスタートアップ若しくは個人向けに対して、アクセラレーションモジュール（Módulo Tração）は既に市場に進出しているものの年間売り上げは 1,600 万リアルを達成していないスタートアップが対象となった。創業モジュールに参加した 44 社のうち 16 社が会社設立し、アクセラレーションモジュールの 30 社の中は、投資家 50 名と繋げることが出来て数多くの売り上げ増加の事例がみられた。参加者の 95%にとって大好評だった¹⁹。

2020 年 10 月にプログラム第 2 回目を実施するアクセラレータの選定が開始され、21 年 1 月に、アルテミジア (Artemisia)、ワイラ (Wayra) とリーガ・ベンチャーズ (Liga Ventures) のアクセラレータ 3 社によるコンソーシアム AWL に仮決定した。今回、アクセラレーションを受けることになるスタートアップ数は 135 社に拡大し、アクセラレーション期間は 3 回を通じて 30 カ月間となる予定。対象分野は医療、教育、サステナビリティ、政府・自治体系スタートアップ (Govtech) となり、社会環境にインパクトのある分野が更なる注目を集める²⁰。

- ・ 研究事業融資公社 (FINEP) による Finep Startup プログラム

ブラジル連邦政府の科学技術革新省 (MCTI) が管轄する公社である研究事業融資公社は、商品やサービスの販売初期でスケールアップが必要な段階にあるスタートアップを対象とした Finep Startup プログラム²¹を 2017 年にスタートした。

多くのブラジルのスタートアップは、エンジェル投資家等から 50 万リアル程度の最初の出資を受けた後、シード投資ファンド等からの 300 万リアル程度の出資を受けるまでの間で事業資金を確保する上での困難に直面している。このプログラムはこの資金獲得ギャップを埋めることを目的として導入された。

2017 年からの 4 年間で 200 社に投資する方針で開始された。年間 2 回までのラウンドを開催し、1 ラウンドあたり 25 社の選定を行なうこととしていたが、2018 年からは 1 ラウンドあたりの選定企業数を 30 社に拡大している。1 社あたり 100 万リアルを上限に投資し、ビジネスプランの進展次第では追加的に 100 万リアルまでの投資を認めている。

投資対象は、応募時点で年間売上高が 480 万リアルまでの企業で、その際に資金獲得の目的となる革新的な製品やサービスについて最初の取引が完了していることが望ましく、少なくとも試作もしくは実証実験段階になくはならない。分野は原則としてアグリテック、BIM (Building Information Technology)、持続可能都市、防衛、創造経済、教育、エネルギー、フィンテック、ヘルステック、鉱業、石油、化学、バイオテクノロジー、ブロックチェーン、人工知能、IoT、先進製造技術、マイクロエレクトロニクス、ナノテクノロジー、拡張現実を対象とする。なお、スタートアップが公的資金に依存することを避けるため、エンジェル投資家からの出資を受けている企業が優先的に選定される仕組みとなっている。

この Finep Startup の最初の公募となった 2017 年第 1 回ラウンドでは、869 社からの応募があり、19 社²²が選定され、2017 年の第 2 ラウンドでは 15 社²³が選定された。また、通算 3 回

¹⁹ <https://www.bndes.gov.br/wps/portal/site/home/onde-atuamos/inovacao/bndes%20garagem%20-%20apoio%20ao%20desenvolvimento%20de%20startups/bndes-garagem-chamada-publica-para-selecao-de-aceleradora>

²⁰ <https://www.bndes.gov.br/wps/portal/site/home/imprensa/noticias/conteudo/bndes-garagem-tera-segunda-edicao-com-foco-em-emprededorismo-de-impacto-socioambiental>

²¹ <http://www.finep.gov.br/apoio-e-financiamento-externa/programas-e-linhas/finep-startup>

²² <http://www.finep.gov.br/chamadas-publicas/chamadapublica/609>

²³ http://www.finep.gov.br/images/chamadas-publicas/2018/22_10_2018_Resultado_Final_Visita_Tecnica.pdf

目・4回目となる2018年第1回ラウンドの選考では27社²⁴、第2ラウンドでは30社²⁵、5回目の選考が行われた2020年の第1ラウンドでは24社²⁶が選定された。

・ ブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) による革新的企業向け資本増強事業 (Capitalizando Empresas Inovadoras)

年間売上高 480 万レアル以下の零細・小企業の支援を行なう機関に、ブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) がある。1972 年の設立当初は連邦政府機関であったが、1990 年に政府の管理から切り離され、現在は民間の非営利組織となっている。類似した組織には業種別に商業 (SESC/SENAC)、工業 (SESI/SENAI)、農業 (SENAR) などが設けられ、それぞれに特化した職業訓練や従業員向けの福利厚生サービスが提供されている。団体の頭文字をとって、これらの団体は S システムと呼ばれる。このうち、ブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) は、小規模企業向けの職業人向けの公的サービス機関として存在するもので、他の S システムの機関と同様に、従業員に支払われる給与に応じて企業が運営費を納付・負担している。民間の資金で運営されていながらも、その設立や活動内容が法令で規定された公的機関としての性格の強い組織である。

ブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) では、起業に関するセミナー・アドバイス、零細・小企業向けのビジネス展示会の開催を主な活動内容としていたが、近年はスタートアップ・エコシステムの発展を目指した取組みにも注力している。2018 年には 7 月には、新たな試みとして投資ファンドを通じて 4,500 万レアルをスタートアップに投資する「革新的企業向け資本増強 (Capitalizando Empresas Inovadoras) 事業²⁷」を発表。そのためにブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) が投資を行なうファンドを 5 つ選定中である (本レポート執筆の 2021 年 3 月 2 日時点では結果未発表)。

なお、2017 年より、州毎にスタートアップ向けビジネスラウンドテーブル、メンターシッププログラム等が実施され、選定されたスタートアップを投資家と繋げることを目的とする、「起業家投資プログラム (Programa Capital Empreendedor)」が実施されている²⁸。2020 年に 23 州からスタートアップ 223 社及び投資家 96 名が参加し、最終的に 41 社が選定された。2017 から 2019 年まで、26 社へ 1,160 万レアルの投資額が行われた²⁹。

また、2018 年 2 月に公布された法令第 9,283 号では、ブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) が直接スタートアップ等の企業に出資することが認められたため、ファンドを介さない投資や独自ファンドの設立も並行して検討されている。上述の「革新的企業向け資本増強事業」は、ブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) が積極的なスタートアップ投資に今後打って出るためのノウハウを蓄積する場としての事業と位置づけられている。

ブラジル零細・小企業支援サービス (SEBRAE) は、約 20 年前にも支援対象となる零細・小企業

²⁴ http://www.finep.gov.br/images/chamadas-publicas/2018/14_11_2018_Resultado_final_etapa_2_-_edital_2018_-_rodada_1.pdf

²⁵ http://www.finep.gov.br/images/chamadas-publicas/2019/12_07_2019_Resultado_Final_2_EtapaEdital_2018_Rodada_2.pdf

²⁶ http://www.finep.gov.br/images/chamadas-publicas/2020/11_09_2020_Resultado_Segunda_Etapa_Startup.pdf

²⁷ <http://www.agenciasebrae.com.br/sites/asn/uf/NA/sebrae-disponibiliza-r-45-milhoes-para-pequenos-negocios-inovadores,efeb2a6a39764610VgnVCM1000004c00210aRCRD>

²⁸ <http://www.agenciasebrae.com.br/sites/asn/uf/NA/capital-empreendedor-e-ferramenta-para-impulsionar-negocios-inovadores,63fca8c04cf64610VgnVCM1000004c00210aRCRD>

²⁹ <http://www.agenciasebrae.com.br/sites/asn/uf/NA/capital-empreendedor-encerra-ciclo-2020-com-mais-de-r-11-milhoes-em-investimentos,152c9bedc70e5710VgnVCM1000004c00210aRCRD>

への出資を行っていたことがある。昨今の市場の変化やそれに伴う法令の変更を受けて、再び積極的な企業支援にかじを切ることになった。ブラジル零細・小企業支援サービス(SEBRAE)によると、閉業したスタートアップの4割がその理由として資本獲得の困難さを挙げている。準公的機関の位置づけとなるブラジル零細・小企業支援サービス(SEBRAE)がそれら課題に対し、従来の零細・小企業支援とは異なる手法を導入しようとしている点に、ブラジルのスタートアップのポジティブな環境変化の一端を見ることができる。

③ エンジェル投資に関する規制緩和

前述の起業優遇の項で述べた、簡易税制シンプレス・ナシオナウ(Simples Nacional)の適用対象となるような零細・小企業の出資者は、ブラジルの会社法に沿って出資比率に応じ、会社経営上の決定権を有し、また負債や法的トラブルの際の責任を負うこととなっていた。そのため、このような一般的な出資行為とエンジェル投資は区別されるべきとの議論があった。そこでブラジル国内でのエンジェル投資の奨励を目的として、2016年に通称「エンジェル投資家法」と呼ばれる補足法第155号³⁰が定められている。

ここでは、出資を受ける企業とエンジェル投資家が「資本参加契約」を締結することにより、会社の経営判断に加わらない投資家については通常の出資者が義務的に追う責任を免除し、さらにエンジェル投資家が投資する金額を従来の出資者が拠出する資本金とは区別し、従来にはなかった資本参加の様式を定めている。これによって投資先企業の経営とエンジェル投資家それぞれの独立性が確保され、投資側から見たリスクの軽減が図られているとともに、企業にとってエンジェル投資を受けやすい環境が整えられた。なお、個人・法人ともにエンジェル投資家となることが認められている。

エンジェル投資家は投資の2年後から5年間、スタートアップの利益の50%を超えない範囲で分配金を受け取ることができるようになる。この2年間という期間については、スタートアップが投資家への配当支払いを開始する前に事業の収益化を図るのに適切な期間と捉えられている。一方で、エンジェル投資家による投資引上げは投資から2年後以降に認められ、その時点での企業価値に対する出資比率相当分を受け取ることができる。仮にスタートアップの経営陣がスタートアップの売却を決定した場合には、エンジェル投資家が優先的に経営陣と同条件で出資比率相当分の利益を取得する権利を有し、エンジェル投資家が出資した資本部分も買収者が取得しなければならないことが定められている。

なお、「エンジェル投資家法」には投資家課税の規定が不十分など、幾つか課題が残っている。そのため、業界が求めているスタートアップ法に該当する補足法案第146号(Marco Legal)の議論が進んでおり、2021年3月時点では上院での修正内容を再度下院に諮って下院本会議での審議を待つプロセスになると見込まれている。詳細については10章にて解説。

④ 国や地方自治体の新サービス分野に関する規制対応事例

ブラジルは一般的に各種規制が細かく定められており、細分化した業種・業態毎に規制を制定・適用している。従来の分類に属さない新たな業種が出てきた場合、既存の規制を適用するのみならず、同業態に対する法律・規制を新たに制定する傾向がある。

例えば中央銀行は国内の貸付金利が高止まりしていた問題解決に際し、規制緩和によるフィンテック企業参入を通じたイノベーションの導入や様々な融資手段の投入を行ってきた。これがブラジルのフィンテック普及への追い風となっている。具体例として中央銀行が2018年4月26日、金融分野に参入するための新たな業態を規定する国家通貨評議会(CMN)決議第4,656号

³⁰ http://www.planalto.gov.br/ccivil_03/LEIS/LCP/Lcp155.htm

を公布したことが挙げられる。これはファイナンスサービスを提供するスタートアップ業界の要望に応じて、柔軟な規則を定めたものである。従来は金融業に新規参入する場合には既存の金融機関との業務提携が必要であることや、自己資金による貸付が禁止されていたが、本決議によりフィンテック企業自身が顧客口座を開設・維持することが認められたほか、電子プラットフォームを用いて自己資金を貸付けることができるようになった。

さらに、フィンテック企業が個人・企業間の貸付サービスを提供することも認められた。貸方は1人(もしくは1社)あたり1万5千リアルまでの貸付が許可されており、1個人が複数の個人・法人に対してその範囲内で貸付を行なうことが可能となっている。本決議において、これらの業態は直接信用会社(SCD)、個人間融資会社(SEP)とカテゴリ化されている。監督機関がこうした新たな業態をフレキシブルに設定することにより、金融市場での貸付・投資における公正な競争が確保されるとともに、これまでになかった業態の企業の活動に関する透明性が利用者にも確保されるメリットをもたらしている。

ライドシェアサービスに関しても、既存のタクシー等の法的枠組みに当てはめるのではなく、新たな法令を定めるなど政府や議会の柔軟な対応が見られた。ブラジルにおけるライドシェアサービスは、2014年にウーバー(Uber)が参入したのが先駆けである。その後、サービス提供都市の拡大とともに他社の参入も相次いだ。連邦法令で規定されていない業態であったために市自治体がバラバラに独自の規則を定めたり、司法が介入してサービスの停止を決定したりするなど、法的な安定性が欠けていた。

この業態に対応する全国レベルで有効な規則として、法令13,640号(通称「Uber法」)が2018年3月に公布された。ここではアプリを用いたライドシェアサービスを提供する車両への営業車両用の赤ナンバープレートの取得免除、各市自治体がサービスに関して規定・監督する権限を持つことが規定された。運転手に対しては、サービスを提供開始する際に無犯罪証明書を提示しなければならない点、事業者用普通自動車免許への書き換え、車両年数上限への対応が義務化され、一方の市自治体には市税の徴収、自賠償保険の加入義務、年金社会保障(INSS)への加入義務を定めることができたこととした。

元々、タクシーは市自治体による許可制のサービスであったことから、ライドシェアサービスも同様に市の条例で個別に細則が規定されることとなったものの、国内の都市でこのサービスを提供することを連邦レベルで合法としたことで、法的な安全性がひとまず確保される形となった。

ブラジルでは、業界団体のロビー活動等を通じて法令の制定・改正が頻繁に行われている。そのため、法令が複雑さを増すというデメリットを抱える一方、法令で規定されていない新たなサービスに対しては議論を経て柔軟にルールを作っていくとする素地がある。法的な安全性の確保は、事業の見通しを立てる上で投資家・スタートアップの双方にとって重要であるが、特に技術を用いて従来にはない方法で社会問題を解決するという場合において、制度面でブラジルは寛容であると言える。

(2) 大学、研究機関

ブラジルでは、新たな製品・サービス・プロセスの開発のための科学技術の基礎・応用研究を活動目的と定めた公的な研究機関を科学技術研究機関(ICT)と定義している。これには国内の研究開発活動において重要な役割を果たす国立大学も含まれる。

科学技術革新省(MCTI)の2018年度の「ブラジル国内ICTの知的財産政策に関する情報フォーマット³¹」(FORMICT)によると、国内には305のICTが存在し、そのうち96機関が民間により運

³¹ http://fortec.org.br/wp-content/uploads/2019/12/Relat%C3%B3rio-Formict-2019_Ano-Base-2018.pdf

営されている。公的部門による ICT は 209 機関で、運営主体別の内訳は連邦 141、州立 62、市立 6 機関となっている。また総数 305 機関のうち半数近い 137 機関が大学等の高等教育機関となっている。

これだけ多くの機関を抱えながら、イノベーション・エコシステムでは、企業と ICT の連携不足が指摘され続けてきた。企業はライセンス料を支払って海外で開発された技術を導入するか、もしくは主に大企業が自社で抱える研究開発部門で技術開発を行なうのが一般的であった。

そこで、2005 年付法令第 11,196 号³²(通称「グッド法」)では、企業による ICT 活用の奨励を目的として、ICT・個人発明家・零細・小企業等に対して発注される研究開発にかかる支出を、法人所得税(IPRJ)と純利益に係る社会負担金(CSL)から控除することが認められている。なお、これらの恩典は法人税控除であるため、実質利益課税方式で納税している企業のみが対象となり、売上高に対して一定の課税を行なうシンプレス・ナシオナウを含むいわゆるみなし利益課税方式を採用している企業はこの対象とはならない。なお、2016 年に公布された法令第 13,243 号(通称「イノベーション新基本法」)では、民間の非営利研究機関も ICT の対象に加えられるようになった。

またスタートアップと ICT の関連では、科学技術革新省(MCTI)が 2018 年 7 月に TechD プログラム³³を発表している。これは、ブラジル・ソフトウェア産業改善促進協会(SOFTEX)とともに、IoT・医療・エネルギー・都市交通分野の革新的事業の奨励を目的として、選定された 29 の事業に対し、ICT による研究開発と研究者助成金として合計 1,800 万リアルを給付するもの。企業・スタートアップ・ICT 間の技術移転、特許数の増加、ブラジル国内企業により実用化された技術の利用によるコスト削減などの効果が期待されている。

(大学を中心とした企業クラスターの形成に関しては、第 3 章「ブラジルにおける IT 分野の産業集積」も参照のこと)

(3) 民間企業のスタートアップ支援関連サービス

民間企業のスタートアップ・エコシステムへの関与は、アクセラレーション・プログラムについては第 6 章で、ベンチャー・キャピタルについては第 8 章で詳しく述べる。また、起業当初の拠点を提供するインキュベーションセンター、コワーキングスペース、シェアリングオフィスも第 7 章で後述するため、本項ではその他のエリアで起業しやすい環境を作る上で関与している民間企業およびそのサービスをいくつか紹介する。

① IT 関連企業によるスタートアップ向けのインフラ提供

スタートアップが IT 関連サービスを開発するためのプラットフォームとして、アマゾンが提供するアマゾン・ウェブサービス(AWS)、グーグルが提供するグーグル・クラウド・プラットフォーム(GCP)、アイ・ビー・エムが提供する IBM クラウドサービスなどが世界で広く利用されている。ブラジル国内企業やスタートアップは、新サービスの開発や既存サービスの改善のためにこれらを活用している。アマゾンは、AWS を提供するための南米唯一のデータセンターをサンパウロに開設し、E コマース事業の展開に先駆けて 2011 年にブラジルでサービスを開始している³⁴。物理的にブラジル国内にサーバーが設置されることで、米国や欧州でデータ処理さ

³² http://www.planalto.gov.br/ccivil_03/_ato2004-2006/2005/lei/111196.htm

³³ <https://www.assespropr.org.br/investimentos-no-programa-techd-devem-chegar-a-r18-milhoes/>

³⁴ <https://aws.amazon.com/pt/about-aws/global-infrastructure/>

れるよりも海底ケーブル等の通信網を利用しない分だけ処理を高速化できるメリットがあり、同時にそれまで高価であったブラジル国内のクラウドサーバのレンタルコストの低減も図られている。また、起業家向けに特別なパッケージも特定のアクセラレータ、インキュベーター、シードステージのベンチャー・キャピタルを通して提供している³⁵。

グーグルは、2017年にグーグル・クラウド・プラットフォーム(GCP)のラテンアメリカ地域向けのクラウドサービスをサンパウロにて立ち上げた³⁶。これによりAWSと同様、他地域のサーバを利用するよりもデータ転送の遅延が60~85%削減できるとしており、またサーバ利用コストの低減も図られている。またグーグル・クラウド・プラットフォーム(GCP)を用いた決済系サービスでは、ブラジルの利用者向けには世界で初めて現地通貨リアルでの決済に対応。グーグル・クラウド・プラットフォーム(GCP)上で納税手続きも行える完結型サービスのため、利用者がブラジル国内の複雑な税制に対応した別システムを導入する手間を省き、スタートアップ等が本業である創造的なビジネスに注力できる環境を整えている。また、グーグル自体がアクセラレータとなるローンチパッド・アクセラレータ(Launchpad Accelerator)プログラムをイスラエルのテルアビブ、ナイジェリアのラゴスに続いて2018年5月からサンパウロでも開催している³⁷。

IBMクラウドサービスで提供されるAPIの1つである人工知能IBMワトソンも、スタートアップのビジネスにすでに様々な形で活用されている³⁸。フォー・オール(4all)は、フェースブックメッセンジャー上でIBMワトソンが組み込まれたチャットボットとの会話を進めるうちに発注や決済が可能となるシステムを運用している。フリー・ヴァロリゼ(Free Valorize)は、中小企業向けの取引先信用評価サービスを提供する上で、従来の財務諸表の確認に加えて、事業家のパーソナリティや会社の広報情報を用いた分析をIBMワトソンの複数のAPIを組合せることで加味したレポートを作成している。またデガエ(Digaê)は、IBMワトソンの6つのAPIを組合せて、自治体の公共施設管理者を24時間サポートできるアプリを開発。例えば、ある公道において実施された公共投資の金額や、ある公共投資に対する裨益者数はどれくらいかなどの質問をアプリに呼びかけると、市が保有するデータを元にその回答が受け取れるという仕組みを実現している。

なお、アイ・ビー・エムは2017年にはブラジルのアクセラレータであるスタートアップ・ファーム(Startup Farm)と共にブラジルでアクセラレーション・プログラムを行った³⁹。選定されたスタートアップは以下の通り。

- アウヂオ・サガ(AudioSaga)：インタラクティブなオーディオブックの開発プラットフォーム
- アグリコネクテッド(Agriconnected)：IoT、ビッグデータを使った農業機械の整備モニタリングシステム
- イーマスターズ(eMasters)：eスポーツトーナメントを開催するプラットフォーム
- ガストロボックス(Gastrobox)：料理のレシピと食材のサブスクリプション型コマース
- インスタンティージャー(Instanteaser)：企業のプロモーションビデオのウェブ拡散を目的に作成するサービス
- ジュリドック(Juridoc)：企業の法務関連の管理サービスを提供。弁護士とのマッチングも行う
- フレキシパグ(Flexipag)：携帯を担保に消費者向けローンを提供するサービス

³⁵ <https://aws.amazon.com/pt/activate/>

³⁶ <https://cloud.google.com/about/locations/saopaulo/>

³⁷ <https://brasil.googleblog.com/2018/04/participe-do-launchpad-accelerator-sao.html>

³⁸ <https://www.ibm.com/press/br/pt/pressrelease/51667.wss>

³⁹ <https://www-03.ibm.com/press/br/pt/pressrelease/52551.wss>

- オウルドクス (Owl Docs) : データセキュリティの高い企業の書類管理サービス

② 簡易に起業するための各種サービス

ブラジルのスタートアップの中にはブラジルの複雑な法令を ICT 活用により簡素化するサービスを提供している。そうしたサービスを利用することで、以前よりも簡易に起業できるようになっている。

• 企業設立サービス

ブラジルでの企業設立手続きはシンプルではあるが、会社を初めて設立する起業家にとっては情報収集や慣れない行政手続は時間がかかるものである。従来は会計士や弁護士が会社設立の代行を行ってきたが、安価で会社設立を専門で代行するスタートアップが現れている。

スタートアップ関係者間で知名度が高いのが CNPJ ファシウ (CNPJ Facil) である。CNPJ ファシウは会社設立時に必要な事務所所在地の提供や作業スペース自体の提供も行うが、特筆すべきは事務所所在地としてのバーチャルオフィス契約をすれば会社設立に必要なすべての書類作成とその後の提出のフォローアップを無料で行う点である⁴⁰。

また、ブラジルでは商標に関連する争議が多く、会社設立時に欠かせないのが商標登録手続きである。こちらについても、オンラインで登録手続きを代行するコンソリヂ・スマルカ (Consolide Sua Marca)⁴¹がありプロセス自体はシンプルながら、これまで弁護士に高い報酬を払っていたサービスを低コストで提供している。

• 財務・経理業務関連サービス

中小企業に特化したクラウド型ソリューションを提供するスタートアップのお陰で、会計・税務を担当する社員や会計士等のコストをかけずに起業できる環境が整いつつある。

財務・経理を統合する ERP ソリューションを提供するスタートアップとしてはコンタアズウ (ContaAzul)⁴²・コンタビリゼイ (Contabilizei)⁴³が知名度も高く、利用企業数も多い。請求書類から税務帳票の作成、キャッシュフローや口座の管理を一体化したニボ (Nibo)⁴⁴、支払・売掛金の管理と税務帳票の発行をワンストップで実現するオミイ (Omie)⁴⁵、ペーパーレスで財務・経理管理を実現できるゼロペーパー (Zero Paper)⁴⁶など、サービスのフォーカスの違いはあるが複数の関連スタートアップが存在している。

• マーケティング関連サービス

SNS やサイトの SEO 対策・デジタルマーケティングの自動化サービスを提供するヘズウタード・デジタイス (Resultados Digitais)⁴⁷、インターネット動画の管理・販売サービスのサンバテック (Sambatech)⁴⁸など、企業の大小を問わずに利用できるサービスを提供するスタートアップ

⁴⁰ <https://www.cnpjfacil.com.br/>

⁴¹ <https://www.consolidesuamarca.com.br/>

⁴² <https://contaazul.com/>

⁴³ <https://www.contabilizei.com.br/>

⁴⁴ <https://www.nibo.com.br/>

⁴⁵ <https://www.omie.com.br/>

⁴⁶ <https://quickbooks.intuit.com/br/>

⁴⁷ <https://resultadosdigitais.com.br/>

⁴⁸ <https://www.sambatech.com.br/>

プも登場している。

- ・ 決済分野

2018年1月にニューヨーク証券取引所に上場し、ユニコーンとなったパグセグロ (PagSeguro)⁴⁹はスモールビジネスやEコマースサイト向けの決済サービスで急成長した企業である。また、2018年10月に米国のナスダックにIPO申請したストーン (Stone)⁵⁰もオンライン、オフラインを問わず中小企業の決済ソリューションを提供している。

このように、民間企業のサービス改善によって、ブラジルのビジネス慣習や複雑な法制度の存在に起因する問題が軽減されている。また、必要な営業活動・マーケティング活動、決済について、ITを用いて業務負担を軽減することに着目したスタートアップも出現しており、これにより、低コストかつ迅速に新たなスタートアップの誕生を促していくという循環が生まれつつある。

(4) 海外政府系機関

外国政府も、政府系機関等を通じてブラジルのスタートアップ・エコシステムに様々な形で参画している。

- ・ ベルギー政府系金融機関 SFPI (Société Fédérale de Participations et d' Investissement)⁵¹

2013年1月にベルギーのSFPIはペルフォルマ・インベスチメントス (Performa Investimentos) のファンドに500万リアル出資することを発表した。当該ファンドはイノベーションと環境保護分野に対するスタートアップに投資すべく、1.55億リアルの調達を行っている。

- ・ カナダ ブリティッシュ・コロンビア州の^{52,53}ブラジルスタートアップ誘致プログラム

ブリティッシュ・コロンビア州は、同州のテクノロジー関連企業を中心とした協会であるBCテックアソシエーション (BC Tech Association) と、コンサルティング会社のドリーム2B (Dream2B)⁵⁴、VR (仮想現実)・AR (拡張現実) 領域で製品・サービスを開発する民間企業ワイドリーム・グローバル (YDreams Global)⁵⁵と共に、ブラジルのスタートアップに対してカナダでのアクセラレーション・プログラムを行っている。2018年9-10月のプログラムはAI、ブロックチェーン領域のスタートアップに対して行われた (参加企業は未発表)。参加費用はカナダの投資家・ファンドからスタートアップへのエクイティ投資によって行われる。2021年4-5月に第5回目のアクセラレーション・プログラムが行われ、15社が選定される予定。本プログラムが開始してから、スタートアップ40社の支援実績があり、そのうちのセイフテスト

⁴⁹ <https://pagseguro.uol.com.br/sobre/>

⁵⁰ <https://www.stone.com.br/>

⁵¹ https://www.bndes.gov.br/wps/portal/site/home/imprensa/noticias/conteudo/20130118_belgica

⁵² <http://unbouncepages.com/xrcanada/>

⁵³ <http://unbouncepages.com/batch4/>

⁵⁴ <https://dream2b.com.br/pt/>

⁵⁵ <http://ydreamsglobal.com.br/site/>

(Safetest) は Covid-19 の低価格検査ソリューションを開発し、高い評価を得た。⁵⁶

- イスラエル・トレード&インベストメントによるブラジルの「Scale Up Brazil」参加
ブラジル輸出投資促進庁 (Apex-Brasil) がブラジル・プライベートエクイティ・ベンチャーキャピタル協会 (ABVCAP) 、イスラエル・トレード&インベストメントと共催で海外スタートアップ企業向けのブラジルにおけるビジネス展開支援プログラム「Scale Up in Brazil」にイスラエルを選定。オンラインによるブラジル経済や税制などの情報提供に加え、各社商品がブラジル市場において流通するかどうかといった仮説検証や、各社商品の実証実験などの支援などが行われる。第1回は2019年に行われ、第2回も第1回同様イスラエルのスタートアップ企業が対象となった。
- 米州開発銀行 (IDB) のブラジルのファンドへの投資
米州開発銀行 (IDB) はブラジルのスタートアップへの資金提供を目的として、ブラジルのベンチャー・キャピタルに出資をしている。2014年12月にキャピタルテック・ベンチャー・キャピタル・ファンド (Capital Tech Venture Capital Fund) へ28万ドル⁵⁷、2018年6月にはアステラ・インベスチメントス (Astella Investimentos) に2,500万ドル⁵⁸の出資を行ったまた、2020年12月に米州開発銀行のイノベーション・ラボである「IDB Lab」は、サンパウロ大学医学部附属クリニック中央病院 (Hospital das Clinicas) のCOVID-19対策プロジェクトへ87万ドルの投資を決定した。⁵⁹
- 国際金融公社 (IFC) の投資
世界銀行系の金融機関、国際金融公社は複数のブラジルのスタートアップやベンチャー・キャピタルへ資金提供を行っている⁶⁰。主な実績は以下の通り。
 - 2015年：スポーツ用品のオンラインショップのネットシューズ (Netshoes)
 - 2016年：個人の資産管理サービスのギアボウソ (GuiaBolso)
 - 2017年：担保型ローンのクレジットス (Creditas)
 - 2018年：プリペイド携帯電話のクレジット支払サービスのヘカルガペイ (RecargaPay)また、2018年にはブラジル社会経済開発銀行とともに12億レアルの貸付を目的としたファンドを組成し、1.9億レアルを出資し⁶¹。テックエマージ・ヘルス・ブラジル (TechEmerge Health Brazil) という、海外を含むスタートアップがブラジル市場に参入するために、ブラジル企業とのマッチングを行うイベントも主催した⁶²。

⁵⁶ <https://br.financas.yahoo.com/noticias/incubadora-canad%C3%A1-seleciona-startups-brasileiras-145200152.html>

⁵⁷ <https://www.iadb.org/en/project/BR-M1130>

⁵⁸ <https://www.iadb.org/en/project/BR-Q0022>

⁵⁹ <https://www.iadb.org/pt/noticias/bid-lab-aporta-r-44-mi-ao-ideiagov-para-inovacao-no-hospital-das-clinicas-da-usp>

⁶⁰ <https://dealbook.co/investors/ifc>

⁶¹ <https://www.fiern.org.br/bndes-ifc-e-bid-invest-anunciam-fundo-de-credito-de-r-12-bi/>

⁶² <https://techemergebrazil.org/>

3. ブラジルにおける IT 分野の産業集積地

ブラジルには米国のシリコンバレーのような代表的かつ局所集中的な IT 産業の集積地は存在しない。むしろ、元々経済的に発達している地域に点在する形で IT クラスターの形成が見られることが特徴と言える。

各クラスターの中心にあるのは自治体、IT 企業、大学等の研究機関である。また、農業大国ブラジルの特徴として、アグロテックのクラスターが、内陸に位置する国内有数の農業系大学の周辺に存在することが挙げられる。

経済の中心地であるサンパウロ市は当然ながら各種の IT 産業企業が本社を構えているが、そのほかの地域の主要な IT 産業集積地を以下にリストアップする。

地方	所在地	概要
北東部	ペルナンブコ州 レシフェ市	2000 年に州が設置した財団「ポルト・デジタウ (Porto Digital ⁶³)」。企業管理・都市交通・ゲーム・アニメ・モバイルアプリなど 300 社が集積し 9 千人を雇用。
南東部	ミナスジェライス州 ベロオリゾンテ市	2011 年にコミュニティが発足。通称の「サンペドロ・バレー (San Pedro Valley)」はサン・ペドロという地区名から来ている ⁶⁴ 。グーグル、マイクロソフトの進出もあり、IT 系スタートアップが 200 社以上集まる。
	ミナスジェライス州 サンタヒッタ・デ・サ プカイ市	情報通信技術関連の電子工業の集積地。電子投票機、パスポート用チップ、デジタルテレビ送信機等 1 万 3 千点あまりの商品を製造。153 社が 1 万 4 千人を雇用。3 つのインキュベーターも設置されている ⁶⁵ 。
	リオデジャネイロ州 リオデジャネイロ市	リオデジャネイロ連邦大学の敷地内に設けられたリオテクノロジーパーク ⁶⁶ に、大企業・中小企業・スタートアップなど 46 社が所在。約 1,400 名の雇用を生んでいる。10 の大学研究施設も設置されている。
	サンパウロ州 カンピーナス市	2018 年の大学ランキングでブラジル国内 1 位となった州立カンピーナス大学 ⁶⁷ (Unicamp) がある同市には、レーザー技術、光ファイバー、デジタル電話、IT、ソフトウェア企業など 500 社が集積。
	サンパウロ州 サンジョゼ・ドス・カ ンポス市	ブラジルの技術系学術機関では最高峰の 1 つとされる ITA (空軍技術大) に隣接するテクノロジーパーク ⁶⁸ に、約 300 の企業と機関が入居。うち 107 社が宇宙航空・防衛分野、69 社が IT 分野。約 2,000 人を雇用。インキュベーターも設置されている。
	サンパウロ州 サンカルロス市	同市にはサンパウロ大学 (USP) 工学部が設置されており、民間企業への技術移転を促進するためのテクノロジ

⁶³ <http://www.portodigital.org/>

⁶⁴ <https://www.sanpedrovalley.org/>

⁶⁵ http://www.pmsrs.mg.gov.br/Home/?page_id=12722

⁶⁶ <http://www.parque.ufrj.br/>

⁶⁷ <https://www.inova.unicamp.br/parque-cientifico-e-tecnologico-da-unicamp/>

⁶⁸ <http://www.pqttec.org.br/>

地方	所在地	概要
		パーク ⁶⁹ が1984年に開設されて以来、IT・新素材・電子機器・オートメーション・ロボティクス・化学・ファインケミカル・光学系の企業が集積する。180社。
	サンパウロ州 ピラシカーバ市	通称「アグテック・バレー(AgTech Valley) ⁷⁰ 」。同市にある世界で5番目に優れた農業系教育機関であるサンパウロ大学農学部(Esalq)が同市に設置されていることから、IT・バイオテクノロジー・環境ソリューションに特化したアグロテック企業80社が集積している。
	サンパウロ州 ポツカツ市	パウリスタ州立大学(Unesp)農学部・医学部や州立技術高専(Fatec)が同市に設置されており、アグロテック・バイオテクノロジー系企業が入居するテクノロジーパーク ⁷¹ が設置されている。2つのインキュベータープログラムも実施されている。
南部	サンタカタリーナ州 フロリアノーポリス都市圏	テクノロジーパーク「サピエンス・パーク ⁷² 」が設置されている。フロリアノーポリス市とその周辺にIT系が企業900社存在。約2万人を雇用している。サンパウロやリオに比較し家賃と人件費の安さが魅力となり、大手企業のIT・社内ベンチャー部門も他都市から移設されている。
	リオグランデドスル州 ポルトアレグレ市	リオグランデドスル・カトリック大学(PUCRS)が設置するサイエンス・テクノロジー・パーク ⁷³ (Tecnopuc)に約170社が集積。8千人を雇用する。マイクロソフト、ファーウェイ、デル、HPが進出したことで拡大。
	パラナ州 ロンドリーナ市	AGROVALLEY Londrina が現地の研究機関や金融機関、大学と連携しながら農業の生産性や安全性を向上させるバイオやアグリテック系スタートアップの創出を目指している。概況動画は こちら 。

⁶⁹ <http://parqtec.com.br/>

⁷⁰ <http://www.valedopiracicaba.org/>

⁷¹ <https://parquebtu.org.br/>

⁷² <http://www.sapiensparque.com.br/>

⁷³ <http://www.pucrs.br/tecnopuc/>

4. ブラジルにおけるスタートアップ企業の産業集積地

スタートアップ企業の集積状況はIT産業の集積地同様、全般的な経済の発展状況に影響されている。

ビジネスの中心地でありブラジル最大の都市であるサンパウロ州サンパウロ市、リオデジャネイロ州リオデジャネイロ市、ミナスジェライス州ベロオリゾンテ市が3大都市であり、各州の州都でもある。この3州を合わせるとブラジルの総面積では10分の1にしか過ぎないが、人口では44%(約8,500万人)、GDPの55%を占める。かつ3州ともブラジル南東部地域に隣接して位置しているながら、大都市圏自体がそれぞれ大きなマーケットである。

さらに、国際航空便が就航する大型空港を備え、国際的大企業が進出していること、さらに大学等の高等教育機関も充実している。スタートアップの活動を支え、また逆にスタートアップがサービスを提供するB to Bビジネスの環境も備わっていることが、各都市のスタートアップ・エコシステムの発展を支えている。

世界のスタートアップ・エコシステムの情報サイトであるスタートアップ・ブリンク(STARTUP Blink)⁷⁴のデータによると、これら3都市はスタートアップ・エコシステムの充実度ではブラジルでトップ3となっている。

表. スタートアップ企業が集積する主要都市

	人口 (国内順位)	エコシステム 順位	主なスタートアップ
サンパウロ市	1233万人 (1位)	国内1位 世界20位	パグセグロ(PagSeguro、決済サービス) ノビノビ(99 ⁷⁵ 、ライドシェア) ヌーバンク(Nubank ⁷⁶ 、オンラインバンク)
リオ・デ・ ジャネイロ市	675万人 (2位)	国内2位 世界148位	ペイシェ・ウルバノ(Peixe Urbano ⁷⁷ 、ローカルEC) シースペー・インヴェスチメントス(XP Investimentos ⁷⁸ 、オンライン証券) ズーピ(Zoop ⁷⁹ 、決済サービス) ニボ(Nibo ⁸⁰ 、経理・会計)
ベロオリゾン テ市	252万人 (6位)	国内3位 世界154位	ホッチマート(Hotmart ⁸¹ 、デジタルコンテンツ販売) マックスミリヤス(MaxMilhas ⁸² 、航空券マイル売買)

出所：人口-ブラジル地理統計院(IBGE)、エコシステム順位-<https://www.startupblink.com/>

また、第6章で詳細を述べるが、起業家が集中する要因として、起業直後のサポート機能を

⁷⁴ <https://www.startupblink.com/>

⁷⁵ <https://99app.com/>

⁷⁶ <https://www.nubank.com.br/>

⁷⁷ <https://www.peixurbano.com.br/>

⁷⁸ <https://www.xpi.com.br/>

⁷⁹ <https://zoop.co/>

⁸⁰ <https://www.nibo.com.br/>

⁸¹ <https://www.hotmart.com/pt/>

⁸² <https://www.maxmilhas.com.br/>

備えるアクセラレータは、ベンチャー企業やスタートアップの集積地に進出する傾向があり、アクセラレータの存在自体が起業を促す循環に大きな影響を与えている。

国内アクセラレータの都市への集中度を見ても、サンパウロ州サンパウロ市、リオデジャネイロ州リオデジャネイロ市、ミナスジェライス州ベロオリゾンテ市にアクセラレータが集中して存在していることが分かる。

完全にオンラインで完結するビジネスや、極めてローカルな市場や地域的なニッチをターゲットとしたビジネスの場合は上記 3 都市以外で起業し、一定の規模に成長するまで本拠地として運営することもできる。しかし経済・人口の集中度が高い上記 3 都市に顧客、投資家、提携先等々も集中するため、成長過程においてオフィスを開いて担当者を置くことが一般的である。

5. ブラジルにおけるスタートアップ企業の現状

日本のようにスタートアップ企業の上場が比較的容易でないブラジルでは、スタートアップのエグジットがエコシステムにおける課題となっている。これまでは国外を含む大企業による買収が主なエグジットのオプションであったが、近年は米国で上場や、上場前に海外の大手ベンチャー・キャピタルから大型の資金調達を行ったりする企業が出てきている。

そこで、本章ではブラジルのスタートアップの中でユニコーンを含む大型のエグジットを行った企業や本レポート作成直前で大型の資金調達を行ったスタートアップを紹介する。

(1) アメリカに上場した IT・スタートアップ企業

① パグセグロ (PagSeguro)⁸³

創業年：2006 年
WEB：http://pagseguro.uol.com.br
住所：Avenida Brgadeiro Faria Lima, 1384, São Paulo - SP
代表者：ヒカルド・ドウトラ (Ricardo Dutra)
従業員数：非公表
上場年月：2018 年 1 月
上場時の時価総額：50 億ドル
2021 年 1 月の時価総額：174 億ドル

サービス概要：パグセグロ (PagSeguro) は決済サービスのプラットフォーム企業。オンラインショッピングのカード決済だけでなく、実店舗でも使える Wifi やブルートゥース、通信チップを使ったポータブルの決済端末や、e コマースのサイトを持たない売り手のための E メール決済など、幅広い決済サービスを提供する。デビットでは決済額の 1.99%、クレジットでも決済額の 3.19%という低い決済手数料で急成長を遂げた企業。また、審査なしで受け取れるチャージ型のクレジットカードサービスも提供。2019 年の売上は 54 億 660 万リアル、利益は 13 億 6700 万リアル。

起業からの経緯：ブラジルの大手メディアグループ UOL が、2006 年に自社の金融サービスのプラットフォームとして設立。翌年に電子支払いシステムを提供するスタートアップペーエヒペイ (BrPay) を買収。2010 年には登録ユーザー数が 1,200 万を超え、2012 年にはフィンランドの世界的な通信会社ノキアと協力し、ブラジル国内初の NFC (近距離無線通信) システムを利用した支払いを導入。その後、カードリーダーの端末や、郵便局と共同で割引付の郵便小包プランの提案、カード決済アプリなど新しいサービスを次々に提供。さらに 2017 年には、金融ローンサービスを提供するスタートアップ、ビヴァ (Biva) の株の 50.5% を約 1,100 万リアルで購入し、2018 年 1 月にはニューヨーク証券取引所へ上場。調達額約 23 億ドルで英国の投資分析プラットフォームディーロジック (Dealogic) が提供する 2018 年の上半期グローバル IPO ランキングで

⁸³ <https://exame.abril.com.br/negocios/pagseguro-compra-controle-de-fintech-biva-diz-fonte/>,
<https://economia.uol.com.br/noticias/bloomberg/2018/01/24/pagseguro-do-uol-levanta-us-23-bi-em-ipo-em-nova-york.htm>, <https://asia.nikkei.com/Business/Business-Trends/Online-payment-services-make-big-IPO-waves-this-year>, <https://exame.abril.com.br/tecnologia/pagseguro-e-nokia-firmam-parceria-para-mobile-payment/>,
<https://www.alinhacerto.com.br/index.php?route=information/information&information>,
<https://br.reuters.com/article/businessNews/idBRKBN1EE2LO-OBRBS>, <http://investors.pagseguro.com/>

5 位にランクインした。

② ストーン (Stone)⁸⁴

創業年：2012 年
WEB：https:// www.stone.com.br/
住所：Rua Fidencio Ramos 308, Andar 10 cj 102, Torre A, Sao Paulo, SP
代表者：アンドレ・ストリート (André Street)
従業員数：非公表
上場年月：2018 年 10 月
上場時の時価総額：53 億ドル
2021 年 1 月の時価総額：221 億ドル

サービス概要：ストーンはブラジルで独立系最大のカード決済ソリューションを実店舗・オンライン店舗の両方に提供する。2021 年時点でブラジル全州、計 1,500 都市以上でサービスを 58 万件以上の顧客に対して提供。オンライン決済のパガールメ (Pagar.me)、ムンジパグ (Mundipagg)、売掛金を中心にした金融管理ソリューションのイクオーウス (equals)、タブレットや携帯電話にデバイスを繋げて決済できるサービスを提供するキャプタ (Capta) 等をグループ内に抱える。

起業からの経緯：2012 年の創業から急成長を続け、2018 年 10 月 1 日にナスダックに IPO 申請。その後、株式公開前に米国の投資会社バークシャー・ハザウェイ、中国の著名起業家ジャック・マーが起業した企業グループの投資会社アントフィナンシャルからの出資を決め、10 月 25 日にナスダックに上場。IPO 資料によると公募株価 21-23 ドルで約 10 億ドルを調達、企業価値は約 60 億ドルを想定していたが、公募後に株価が 30 ドルを超え、企業価値は約 90 億ドルに達した。2019 年の売上は 25.7 億リアル、利益は 8 億リアル、夫々は前年比の 63.1%増と 163.5%増という高い成長を示した。

⁸⁴ https://www.nasdaq.com/markets/ipos/filing.ashx?filingid=12986849#D580263DF1_HTM_ROM580263_4, <https://www.reuters.com/article/stone-ipo-berkshire-hathaway/update-1-brazilian-card-processor-hopes-to-lure-buffett-with-1-1-bln-nasdaq-ipo-idUSL2N1WW0YZ>, <https://seekingalpha.com/article/4213334-stoneco-ipo-valuation-update>, <https://www.reuters.com/article/us-stone-ipo/stoneco-shares-pop-33-percent-in-debut-hits-9-billion-valuation-idUSKCN1MZ2DO>

③ シースペー・インヴェスチメントス (XP investimentos)⁸⁵

創業年：2001 年
WEB：https://www.xpi.com.br
住所：Centro Empresarial Mourisco, Praia de Botafogo, 501, Rio de Janeiro, RJ
代表者：ギリエルミ・ベンチモウ (Guilherme Benchimol)
従業員数：約 2700 人(2021 年)
上場年月：2019 年 12 月
上場時の時価総額：213 億ドル
2021 年 1 月の時価総額：216 億ドル

サービス概要：ブラジルで最大級のオンライン証券会社。株への投資や投資ファンド、投資信託、不動産ファンドを含む様々な金融商品への投資がオンラインで可能。現在ではブラジル国内で 660 以上の実店舗も持ち、2021 年時点で顧客数はブラジルを中心に全社で 230 万以上。米国でもビジネスを展開。

起業からの経緯：少額の投資家や投資に慣れていない初心者に、金融についての学びの場を提供しながら投資を行える新しいモデルのビジネスを提供する会社として設立。2003 年には学びの場を提供するシースペー・エデュケーションとシースペー・インベストメントという証券会社の 2 つを設立したところ、シースペー・インベストメントが急成長を遂げる。2006 年には、資産運用会社シースペー・ジェスタオンを設立。2007 年にブラジルの証券会社アメリカン・インベスト・コヘトーラ・ヂ・カンビオ (American Invest Corretora de Câmbio) と、同じくブラジルの証券会社のチトゥロ・イ・ヴァローレス・モビリアリオス (Titulo e Valores Mobiliários) を買収する。2009 年には保険代理事業も開始。2010 年 11 月に米国の投資会社アクティス (Actis) から 5,800 万ドル、2012 年 12 月にも米国の投資会社ジェネラル・アトランティック (General Atlantic) から 1.7 億ドルの投資を受ける。2014 年には信託事業も開始し、2021 年 1 月現在のホームページ上によるとシースペー・インベストメントス (XP investimentos) の運用額は約 4,360 億リアルに達している。2017 年末にはブラジル大手のイタウ銀行 (Itaú Unibanco) が同社の株の 49.9% を 63 億リアルで取得して資本参加した。2019 年 12 月に NASDAQ に上場し、2019 年のグローバル IPO ランキングで 9 位になった⁸⁶。

⁸⁵ <https://www.crunchbase.com/organization/xp-investimentos>,
<https://economia.uol.com.br/noticias/bloomberg/2018/09/20/a-contragosto-xp-entra-no-mercado-de-criptomoedas.htm>, <https://exame.abril.com.br/negocios/cade-aprova-compra-de-fatia-da-xp-investimentos-por-itaunibanco>, <https://www.xpi.com.br/sobre-a-xp/quem-somos/>

⁸⁶ <https://www.cnbc.com/2019/12/29/saudi-aramco-alibaba-among-biggest-ipos-of-2019.html>

④ アルコ・エドゥカサオン (Arco Educação)⁸⁷

創業年：2006 年
WEB：https://arcoeducacao.com.br
住所：Rua Elvira Ferraz, 250, São Paulo - SP
代表者：アリ・ヂ・サ・ネト (Ari de Sá Neto)
従業員数：非公表
上場年月：2018 年 9 月
上場時の時価総額：6.4 億ドル
2021 年 1 月の時価総額：20.5 億ドル

サービス概要：幼児教育や中等教育における基礎教育、バイリンガル教育の教育システム・ソフトウェア・ソリューション開発企業。教科書の製作やコンサルティング、教師の育成プログラム、インターネット上で学校の評価やオンライン講座を提供する教育プラットフォームも所有する。ブラジル国内の 5,400 の私立学校、130 万人の生徒にサービスを提供。2019 年の売上は 5 億 7284 万リアルで前年比 50%増と引き続き成長中。

起業からの経緯：アルコは私立学校の経営者が立ち上げたスタートアップ。アルコのサービスを利用する学校が、2016 年ブラジルの全国共通試験 (Enem) の上位 10 校のうち 3 校ランクインしたことからその実力を証明した。10 以上の教育システム企業を買収し、2019 年にポジティブ教育システムの取得を通じて生徒数を 69 万 5000 から 120 万人まで倍増やした⁸⁸。2007 年にジェネラル・アトランティック (General Atlantic) が 26%の株を取得する。2018 年 9 月 26 日、米国のナスダックに株式を公開し 7 億 8000 万リアル (約 2 億 950 万ドル) を獲得。企業価値は 12 億ドルに達する。

(2) ブラジルに上場した IT・スタートアップ企業

① ロカウェブ (Locaweb)⁸⁹

創業年：1997 年
WEB：https://www.locaweb.com.br/
住所：Rua Itapaiuna, 2434, São Paulo - SP
代表者：フェルナンド・シルネ (Fernando Cirme)
従業員数：非公表
上場年月：2020 年 2 月
時価総額：74 億リアル

サービス概要：ホームページ制作・ウェブホスティング、クラウドサービス、E コマースプラットフォームを提供する IT 企業。顧客数は 28 万 5000 件で、ホストしているウェブサイトの数は 34 万以上。2019 年の売上は 3 億 8570 万リアルで、前年比 22.5%増と成長を示した。

⁸⁷ <https://www.linkedin.com/company/arcoeducacao>, <https://economia.estadao.com.br/noticias/mercados,arco-educacao-capta-r-780-milhoes-em-nova-york,70002521076>,

⁸⁸ <https://forbes.com.br/negocios/2019/05/arco-educacao-vai-comprar-sistema-positivo-de-ensino/>

⁸⁹ <https://www.locaweb.com.br/sobre-locaweb/>

起業からの経緯： ウェブホスティングから始まったビジネスとして、3年以内に顧客数は1万人を達した。2010年にPEファンドシルバーレイク（Silver Lake）の出資を受け、2012年からEコマース事業を開始した。2020年2月、国内証券取引所BOVESPAに上場し、企業価値は26億リアルから2021年1月に125億リアルへ増加した⁹⁰

② エンジョエイ（Enjoei）⁹¹

創業年：2009年
WEB：<https://www.enjoei.com.br/>
住所：Av. Isaltino Victor de Moraes, 437, Embu das Artes - SP
代表者：チエ・リマ（Tiê Lima）
従業員数：非公表
上場年月：2020年11月
時価総額 20億リアル

サービス概要：洋服、本、ゲーム、電子製品等を取り扱うインターネット通販サイトのスタートアップ。2020年のGMV（流通取引総額）は4億9,500万リアルで、前年比83%増を成長し、アクティブ購入者数は79万人を達した。

起業からの経緯：2009年、要らない洋服を友人に販売する目的で、アナ・ルイザとチエ・リマ夫妻は個人ブログを立ち上げた。ブログから古着通販サイトへ、芸能人の古着のマーケットプレイスとして人気広がった。2020年11月に上場し、企業価値は20億リアル⁹²。

③ メリュズ（Meliuz）⁹³

創業年：2011年
WEB：<https://www.meliuz.com.br/>
住所：Av. do Contorno, 6594, Sala 701 — Belo Horizonte, MG
代表者：イスラエル・サウメン（Israel Salmen）
従業員数：非公表
上場年月：2020年11月
時価総額：29億リアル

サービス概要：割引クーポン購入・キャッシュバックサービス、金融サービス（クレジットカード等）を提供するスタートアップ。2019年10月～2020年9月のマーケットプレイスGMV（流通取引総額）は22億リアルで、前年同期比55%増。なお、2020年9月末までの年度売上は8210

⁹⁰ <https://exame.com/exame-in/em-sua-maxima-historica-na-b3-locaweb-prepara-terreno-para-oferta-de-acoas/>

⁹¹ <https://www.enjoei.com.br/>

⁹² <https://www.istoedinheiro.com.br/enjoei-com-startup-que-nasceu-come-blog-convence-e-chegara-a-b3-valendo-r-2-bi/>

⁹³ <https://ri.meliuz.com.br/>

万リアルで、前年同期比 43%増と大きく成長した。

起業からの経緯：2011 年、創業者のイスラエル・サウメンとオフリ・ギマラエンスは既存のポ
イントサービスに対して不満を持ち、E コマースにおいて販売者が貰う販売手数料の一部を購
入者に与える、という新たなキャッシュバックソリューションを基に会社設立⁹⁴。2019 年、金
融分野（クレジットカード提供）に事業を拡げ、2020 年 9 月時点のカード申請者数は 162 万人
以上。2020 年 11 月に上場し、2021 年 1 月まで株価が 9 割上がった⁹⁵。

④ トットス(Totvs)⁹⁶

創業年：1983 年
WEB：<https://www.totvs.com/>
住所：Av. Braz Leme, 1000 - São Paulo - SP
代表者：デニス・ヘルスコウィックス(Dennis Herskowicz)
従業員数：7000 人
上場年月：2006 年 3 月
時価総額：134 億リアル

サービス概要：ERP（企業資源計画）ソリューションを提供する大手 IT 企業。2020 年時点の
ジェトゥリオ・ヴァルガス財団（FGV）の調査により、国内マーケットシェアの 33%を占めて、
ERP 業界においてブラジル第 1 位⁹⁷。2019 年の売上は 22 億リアルで前年比 8.1%増している一
方、利益は 2 億 5210 万リアルで前年比 83.9%増と大幅に成長している。

起業からの経緯：1983 年、中小企業向け IT ビジネス管理ソリューションを提供する会社とし
て設立。1997 年に初の海外拠点としてアルゼンチンに進出し、現在 41 か国でビジネス展開し
ている。2006 年に国内で上場し、IT 業界では南米初の上場企業となった⁹⁸。引き続き、2019 年
5 月に FPO（追加公募）を行い、10 億リアル以上の増資を受けた⁹⁹。

⑤ ポジティボ・テクノロジー (Positivo Tecnologia) ¹⁰⁰

創業年：1989 年
WEB：<https://www.positivotecnologia.com.br/>
住所：Rua João Bettega, 5200 – Curitiba – Paraná
代表者：アリ・ヂ・サ・ネット(Ari de Sá Neto)
従業員数：非公表
上場年月：2006 年 11 月
上場時の時価総額：3.8 億リアル

⁹⁴ <https://endeavor.org.br/desenvolvimento-pessoal/historia-meliuz-ofli-guimaraes-israel-salmen/>

⁹⁵ <https://www.infomoney.com.br/stock-pickers/meliuz-cash3-um-ipo-que-deu-muito-certo/>

⁹⁶ <https://en.totvs.com/about-us>

⁹⁷ <https://eaesp.fgv.br/producao-intelectual/pesquisa-anual-uso-ti>

⁹⁸ <https://ri.totvs.com/en/the-company/history-and-corporate-profile/>

⁹⁹ <https://www.baguete.com.br/noticias/30/05/2019/totvs-capta-r-1-bilhao-na-bolsa>

¹⁰⁰ <https://ri.positivotecnologia.com.br/en/the-company/history-and-corporate-profile/>

サービス概要：電子製品（PC・スマホ）メーカー・教育ソフト開発者。調査会社 IDC によると、2019 年前半の国内 PC 販売台数シェアは 14.3%。2019 年の売上は 19 億リアルで、利益は 2080 万リアルで前年の損失（50 万リアル）を大きく上回った。

起業からの経緯：1989 年、教育系グループ・ポジティブの子会社として立ち上げられた。元々政府機関及び同グループの学校向けパソコン製造及びソフトウェア提供に事業を注力していたが、2004 年からコンシューマー市場向け製造事業を拡大した。2006 年にサンパウロ証券取引所に上場し、更に 2020 年 1 月に FPO（追加公募）を行い、3 億 5370 レアルの増資を受けた¹⁰¹。

⑥ リンクス (Linx) ¹⁰²

創業年：1985 年
WEB：<https://www.linx.com.br/>
住所：Av. dra Ruth Cardoso, 7221, São Paulo - SP
代表者：アルベルト・メナシェ (Alberto Menache)
従業員数：3500 人以上
上場年月：2013 年 2 月
上場時の時価総額：56 億リアル

サービス概要：リテール業界を中心とした管理システム開発会社。2019 年時点で同業界における ERP システムの国内シェアは 45.6%。2019 年の売上に関しては、7 億 8816 万リアルを達しており、前年比 15%増の成長を示した。

起業からの経緯：1985 年創業、アパレルリテールの小企業向け管理システムソリューションを提供。その後、アパレルの他の業界に事業展開し、国内で 2013 年に上場し、ニューヨーク証券取引所 (NYSE) で 2019 年にブラジル IT 企業の初上場となった¹⁰³。

⑦ ネオグリッド (Neogrid) ¹⁰⁴

創業年：1999 年
WEB：<https://neogrid.com/>
住所：Av. Santos Dumont, 935 – Joinville - SC
代表者：エドゥアルド・ラガソル (Eduardo Ragasol)
従業員数：非公表
上場年月：2020 年 12 月
上場時の時価総額：17.9 億リアル

サービス概要：サプライチェーン管理システム (SCM) 開発会社。アグリビジネス、日用品、

¹⁰¹ <https://valorinveste.globo.com/mercados/renda-variavel/empresas/noticia/2020/01/31/positivo-capta-r-3537-milhoes-em-oferta-de-acao.ghtml>

¹⁰² <https://www.linx.com.br/>

¹⁰³ <https://www.linx.com.br/nossa-historia/>

¹⁰⁴ <https://neogrid.com/br>

家電製品、建設、ヘルスケア、アパレル等幅広い業界のアプライチェーンデータを収集・加工・提供している。2019年の売上は、2億710万リアルを達し、前年比18%増と安定的な成長を示している。

起業からの経緯：1999年に設立され、2008年から海外展開。2020年12月に上場し、企業価値は17.1億リアル¹⁰⁵。

(3) 未上場で大規模調達した企業

① ノビノビ(99)¹⁰⁶

創業年：2012年

WEB：<http://99app.com>

住所：Rua Sansão Alves dos Santos, 400, 7º andar, São Paulo, SP

代表者：トニー・キウ(Tony Qiu)

従業員数：非公表

サービス概要：ブラジル発のタクシー・ハイヤー配車・ライドシェア(相乗り)サービスを提供する大手企業。ブラジル国内1,000都市以上で事業展開し、60万人以上のドライバーと約1,800万人の登録利用者を抱える。ウェブサイト閲覧数は月間約55万。企業向けのコーポレートサービスも行う。2017年の7月には、サンパウロ州が呼びかけた5,000万リアルの入札を勝ち取り、州の公務員の交通費削減キャンペーンに同アプリが利用された¹⁰⁷。

起業からの経緯：ノビノビは、2012年にノビノビタクシー(99 Táxi)という名のタクシー配車アプリを提供する企業として創設。2013年には毎日100人の新たなタクシーが登録され、ブラジル全土のタクシー台数の半数以上である8万5,000台が登録した。2013年にブラジルのベンチャー・キャピタル、モナシーズから300万ドル、2015年には2回に分けて米国の投資会社、タイガー・グローバル・マネジメント(Tiger Global Management)より合計4,000万ドルの投資を受ける。その後、2016年始めにハイヤーの配車をする99トップのサービスを始め、2014年にブラジルに進出したウーバーの影響を受け、2017年にはライドシェア、サービス99ポップを開始。2017年の1月には、中国のライドシェア最大手の滴滴出行(Didi Chuxing)から1億ドルの投資を受け、それにより社員を250人増員。2017年5月にはソフトバンクグループが1億ドルを同社に投資。その後、滴滴出行とスマホ向けのアプリの共同開発や、新サービスやマーケティング分野に連携が拡大する中、2018年1月に滴滴出行による買収の合意に至る。

¹⁰⁵ <https://neofeed.com.br/blog/home/a-neogrid-pode-ser-a-nova-locaweb-da-bolsa/>

¹⁰⁶ <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO25309000U8A100C1FFE000/>,
<https://www.crunchbase.com/organization/99taxi>, <https://pt.linkedin.com/pulse/criador-do-aplicativo-99taxi-conta-história-de-seu-jorge-morgado>,

<https://www20.opovo.com.br/app/maisnoticias/brasil/2016/02/15/noticiasbrasil,3575571/99taxi-cria-servico-de-carros-de-luxo-o-99top.shtml>

¹⁰⁷ <https://www.valor.com.br/empresas/5033156/aplicativo-99-vence-licitacao-da-prefeitura-de-sao-paulo>

② ヌーバンク (Nubank)¹⁰⁸

創業年：2013 年
WEB：http:// nubank.com.br
住所：R. Capote Valente, 39, São Paulo - SP
代表者：デヴィット・ヴェレス (David Vélez)
従業員数：2400 人以上 (2021 年)

サービス概要：ヌーバンク (Nubank) は、利用者がアプリを使って資金移動でき、ヌーバンク (Nubank) が発行するデビットカードやクレジットカードも利用可能な手数料不要のネット銀行。銀行の審査に通らず銀行口座を作れない低所得者層向けにスタートし 2021 年時点で 2000 万を超す利用者を擁す。2020 年の前期の売上は 20 億 7,921 万リアル (前年同期比 104% 増)。従来の金融機関のようにクレジットスコアのみを基準に融資の可否を判断するのではなく、スマートフォンの利用金額や自動車運転免許の罰則履歴などのデータも含めた審査を行う。手数料もかからず、借り手の信用度に応じて金利が変わるシステム。

起業からの経緯：シリコンバレーのベンチャー・キャピタル最大手のセコイアキャピタルに勤めていたデビット氏を中心に設立。2014 年にセコイアキャピタル (Sequoia Capital) を中心に 1,430 万ドルの出資を受け、2015 年に米国の投資会社タイガー・グローバル・マネージメント (Tiger Global Management) ら、2016 年に米国の投資会社ファウンダーズ・ファンド (Founders Fund) から 5,200 万ドル、ゴールドマンサックスから 5,600 万ドル、ロシアの投資会社 DST グローバルから 8,000 万ドルの投資を受け、2017 年に米国の投資会社フォートレス・インベストメント・グループ (Fortress Investment Group) とゴールドマンサックスから 4.6 億ドル、さらに 2018 年 5 月に DST グローバルを中心に 1.5 億ドル、2018 年 10 月には中国のインターネット大手テンセントから 1.8 億ドル、2019 年 7 月にベンチャー・キャピタルの TCV 他から 4 億ドル、2020 年 7 月にセコイアキャピタル等から更に 30 億ドル、2021 年 1 月にシンガポール政府投資公社 (GIC) に 4 億ドルの資金調達に成功する。

¹⁰⁸ <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2017/07/ga-2.php>,
<https://www.infomoney.com.br/negocios/grandes-empresas/noticia/7612776/varejistas-invadem-guerra-das-maquinhinhas-em-tempestade-perfeita-mas-do-jeito-errado>, <https://canaltech.com.br/startup/nubank-anuncia-novo-escritorio-de-engenharia-de-dados-em-berlim-alemanha-105198/>,
https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/01/db3bafcea925d50c/20160143.pdf,
<https://epocanegocios.globo.com/Empresa/noticia/2018/10/nubank-vira-maior-startup-latina-com-investimento-de-us-180-milhoes-da-tencent.html>, <https://veja.abril.com.br/economia/nubank-alcanca-5-mi-de-clientes-e-esconde-numeros-do-cartao/>, <https://olhardigital.com.br/noticia/nubank-tem-aumento-de-30-em-prejuizo-e-de-112-em-receita-no-1-semester/78487>, https://brasil.elpais.com/brasil/2018/01/15/politica/1516036047_650408.html

③ コンタアズウ (ContaAzul)¹⁰⁹

創業年：2011年

WEB：<https://contaazul.com>

住所：Rua Dona Francisca, 8300, Bloco: 9, Modulo D, Perini Business Park, Joinville, SC

代表者：ヴィニシウス・ホヴェダ (Vinicius Roveda)

従業員数：非公表

サービス概要：中小企業に会計や経営などのサービス・ソリューションを提供するクラウド上のビジネスプラットフォーム。2021年2月時点の当社ホームページ¹¹⁰によると80万以上の企業がサービスを利用している。

起業からの経緯：大手企業のためのビジネス管理ソフトしか存在しなかったブラジルで、中小企業向けのソフトを開発するため2011年起業。米国のシリコンバレーに拠点を置く500スタートアップから5万ドルの出資を受けると同時に、シリコンバレーでの4カ月のアクセラレーション・プログラムにブラジル初のスタートアップとして参加し、投資家に注目される。その後2013年から2014年で170%、翌年には112%の成長を記録¹¹¹。2015年2月には、米国の投資会社リビット・キャピタルがリードする2,000万ドルの投資を受け、2018年には4月には米国の投資会社であるタイガー・グローバル・インベストメントを中心に3,000万ドルの投資を受ける。2019年10月に零細・小企業へビジネス管理ソフトの提供を広げる為に国立社会経済開発銀行 (BNDES) とのパートナーシップを発表した¹¹²。

④ アイフージ (ifood)¹¹³

創業年：2011年

WEB：<https://www.ifood.com.br/>

住所：Rua Do Retiro 424, Jundiai, SP

代表者：ファブリシオ・ブロイジ (Fabricio Bloisi)

従業員数：3000人以上

サービス概要：ブラジルで最大のフードデリバリープラットフォームを運営する。レストランは自ら宅配機能を持たなくともアイフージを利用することで個人宅への宅配が可能になる。2020年12月でブラジルでの利用者は3,560万人を超え¹¹⁴、国内の加盟レストランは27万件、

¹⁰⁹ <https://www.crunchbase.com/organization/contaazul>, <https://www.prnewswire.com/news-releases/contaazul-brazils-leading-provider-of-cloud-accounting-software-raises-us30-million-in-series-d-round-300623533.html>, <http://hbrbr.uol.com.br/metodologia-agil-e-holocracia-os-segredos-da-contaazul/>, <https://braziljournal.com/contaazul-a-moderninha-dos-sofwares-de-gestao>

¹¹⁰ <https://contaazul.com/sobre/>

¹¹¹ 指標は明示されていないが、出所記事の文脈から顧客数の成長と推測される。

¹¹² <https://www.investe.sp.gov.br/noticia/conta-azul-anuncia-parceria-com-bndes-para-oferecer-plataforma-de-gestao-para-os-empresarios/>

¹¹³ <https://www.crunchbase.com/organization/ifood>, <https://www.linkedin.com/in/patricksigrist/>, <https://www.justeatplc.com/news-and-media/press-releases/just-eats-brazilian-business-restaurantweb-merge-ifood-create-online-restaurant-delivery-winner-brazil>

¹¹⁴ <https://exame.com/exame-in/rappi-perde-usuarios-ativos-em-2020-e-pos-pandemia-desafia-plataformas/>

宅配を行う登録者は16万人に上る¹¹⁵。2019年時点のデータでは1日の注文件数は55.8万件と、米国同業大手のクラブハブの1日の注文件数46.7万人を超したデータもあった程の規模感である¹¹⁶。

起業からの経緯：ブラジルでレストランの宅配業務を個別に請け負っていたディスク・クック(Disk Cook)が2011年にアイフージサイトをオープン。4カ月後には月間の受注件数が1万1,000件を超える。2011年にブラジルの投資会社ウェアハウス・ヴィーシー(Warehouse VC)から310万レアルの出資を受けた後、ブラジルのモバイルメディア大手モビレから2013年には550万レアル¹¹⁷、2014年にはさらに500万レアルの出資を受ける¹¹⁸。2014年には競合サイト、ヘスタウランチ・ウェブ(RestauranteWeb)を運営するジャスト・イート(Just Eat)と合併¹¹⁹し、その後もモビレから2015年に1.25億レアル¹²⁰を、2016年に1億レアルの出資を受ける¹²¹。2018年11月にはモビレが、ナズパズとブラジルの投資会社イノバ・キャピタル(Innova Capital)からアイフージ(ifood)の事業拡大を目的として約15億レアル¹²²(4億ドル)の出資を受ける。モビレのファブリシオ・ブロイジ最高経営責任者(CEO)によれば、調達額の多くはブラジル事業の拡大に投じられるが、メキシコ、コロンビア事業にも向けられるとしている¹²³。

⑤ ジムパス (Gympass)

創業年：2012年

WEB：<https://www.gympass.com>

住所：Rua Engenheiro Dr. Luiz Carlos Berrini, 716 10º andar, São Paulo - SP

代表者：セサル・カルバーリョ (Cesar Carvalho)

従業員数：非公表

サービス概要：フィットネスジムのサブスクリプションサービスを提供するスタートアップ。2019年6月時点で15カ国にビジネス展開し、世界で提携しているジムの数は4.7万件¹²⁴。

起業からの経緯：2012年に創業者のセサル・カルバーリョが従来のジム会員制度に対して不満を感じ、年間契約を結ばずに多くのジムを使えるプラットフォームとして創設。最初は直接ユーザーとジムを結ぶ形のみであったが、B2B進出し、現在は数多くの企業との提携によりその従業員と家族もプラットフォームへアクセスできるようになり、事業拡大に繋がった¹²⁵。2019年6月にソフトバンクから3億ドルの出資を受け、ユニコーン企業となった。2020年より、新型コ

¹¹⁵ <https://institucional.ifood.com.br/ifood>

¹¹⁶ <https://abrasel.com.br/noticias/noticias/ifood-processa-17-4-mi-pedidos-em-marco-alta-anual-de-130/>

¹¹⁷ <https://startupi.com.br/2014/08/warehouse-investimentos-vende-toda-sua-participacao-ifood-para-mobile/>

¹¹⁸ <https://www.infomoney.com.br/negocios/startups/noticia/3185808/mobile-investe-mais-milhoes-ifood>

¹¹⁹ <http://g1.globo.com/economia/negocios/noticia/2014/09/ifood-e-restauranteweb-se-fundem-em-empresa-de-r-1-bilhao.html>

¹²⁰ <https://exame.abril.com.br/negocios/ifood-recebe-novo-investimento-de-r-125-milhoes-da-mobile/>

¹²¹ <https://startupi.com.br/2016/07/ifood-capta-r-100-milhoes-por-meio-da-mobile-e-just-eat-e-passa-a-operar-tambem-no-mexico/>

¹²² 2018年11月当時の為替レートは1ドル3.74レアル

¹²³ <https://mobile.blog/ifood-funding-to-total-unprecedented-usd500m/>

¹²⁴ <https://www.startse.com/noticia/startups/gympass-investimento-softbank>

¹²⁵ <https://startupi.com.br/2020/09/saiba-como-o-gympass-mudou-seu-modelo-de-negocio-e-esta-conquistando-o-mundo/>

コロナウィルスの影響により、オンラインクラス等を提供し始め、柔軟に対応を行っている¹²⁶。

⑥ ネオン (Neon) ¹²⁷

創業年：2016年

WEB：<https://neon.com.br/>

住所：R. Hungria, 1400 – Jardim Europa, São Paulo – SP

代表者：ペドロ・コンハデ(Pedro Conrade)

従業員数：非公表

サービス概要：デジタル口座及びクレジットカードを中心としたデジタルサービスを提供するネット銀行。2020年9月時点で口座開設数は940万件¹²⁸。

起業からの経緯：プリペイドカード提供スタートアップコントロライ (Controly) とポテンシャル銀行 (Banco Pottencial) のJVとして創設。2018年にブラジル中央銀行の規制対応策として大手グループボトランチンの銀行部門と提携した¹²⁹。同年5月にブラジルフアンドモナシーズ (Monashes) を中心とした投資家から7,200万リアル¹³⁰、2019年11月にボトランチン銀行とグローバル投資会社ジェネラル・アトランティック (General Atlantic) から4億リアル¹³¹、2020年にジェネラル・アトランティック (General Atlantic) とペイパル (PayPal) の他から更に3億ドル¹³²の調達に成功した。

⑦ ロggi (Loggi) ¹³³

創業年：2013年

WEB：<https://www.loggi.com/>

住所：Alameda Santos, 2400 - Jardim Paulista, São Paulo - SP

代表者：ファビエン・メンデズ (Fabien Mendez)

従業員数：非公表

サービス概要：Eコマースや配達の物流ソリューションを提供するスタートアップ。2020年9月に1日の配達件数は30万件を上回った¹³⁴。

起業からの経緯：2013年に文書配達を中心として創業。2年後はEコマース配達に進出し、2017

¹²⁶ <https://valorinveste.globo.com/mercados/renda-variavel/empresas/noticia/2020/03/30/gympass-anuncia-medidas-para-ajudar-as-academias-parceiras-durante-a-pandemia.ghtml>

¹²⁷ <https://neon.com.br/>

¹²⁸ <https://www.terra.com.br/noticias/tecnologia/inovacao/com-aporte-de-us-300-mi-neon-e-a-startup-brasileira-com-o-maior-investimento-de-2020,24edba2c238a771886740dcfdc8d729d9it2.html>

¹²⁹ <https://canaltech.com.br/empresa/banco-neon/>

¹³⁰ <https://epocanegocios.globo.com/Empresa/noticia/2018/05/epoca-negocios-banco-neon-levanta-r-72-milhoes-em-la-rodada-de-investimentos.html>

¹³¹ <https://epocanegocios.globo.com/Empreendedorismo/noticia/2019/11/neon-recebe-investimento-de-r-400-milhoes.html>

¹³² <https://epocanegocios.globo.com/Startup/noticia/2020/09/fintech-neon-recebe-novo-aporte-de-us-300-milhoes-liderado-por-general-atlantic.html>

¹³³ <https://www.loggi.com/>

¹³⁴ <https://neofeed.com.br/blog/home/o-plano-da-loggi-para-ocupar-o-lugar-dos-correios/>

年よりフードデリバリーを開始¹³⁵。2013年に250万レアルのシードマネーを受け、1年後はモナシーズ (Monashes) から1,000万レアル、2015年米国投資ファンド Dragoneer から5,000万レアル、2017年にマイクロソフトと国際金融公社 (IFC) から更に5,000万レアル、2018年にソフトバンクより4億レアル、2019年にソフトバンクやマイクロソフト他から更に1.5億ドルの調達に成功し、ユニコーン企業になった¹³⁶。

⑧ マデイラ・マデイラ (Madeira Madeira)

創業年：2008年
WEB：<https://www.madeiramadeira.com.br/>
住所：Rua Marechal Deodoro, nº 717 – Curitiba - PR
代表者：ダニエル・スカンディアン (Daniel Scandian)
従業員数：1000人以上

サービス概要：家庭向け製品（家具、家電製品、建設材料等）のEコマースで工場と消費者をダイレクトにつなぐスタートアップ企業。2021年2月、同社サイトによると200万個の商品が掲載され、顧客数は500万人を超えた¹³⁷。

起業からの経緯：2008年にファミリービジネスとして立ち上げられた。2015年よりマガジニルイザやアメリカナス等のブラジル大手Eコマースサイトにも製品販売を開始し、急に事業拡大ができた¹³⁸。ソフトバンクを中心とした投資ファンドから2019年に1.1億レアルを、2021年1月に1.9億ドルの調達を受けた¹³⁹。

⑨ クレジタス (Creditas) ¹⁴⁰

創業年：2012年
WEB：<https://www.creditas.com.br/>
住所：Av. Engenheiro Luís Carlos Berrini 105, 12º andar, São Paulo, SP
代表者：セルヒオ・フリオ (Sergio Furio)
従業員数：非公表

サービス概要：クレジタス (Creditas) は2012年にアルゼンチン人のセルヒオ・フリオがブラジルで創業したスタートアップ。不動産や自動車を担保にしたローンを申込、審査、実行を複数の貸出先候補に対してオンラインで行うことができる。

起業からの経緯：2012年の創業から2017年までに累計1億ドルの融資を行い、債務不履行となるデフォルト率は1%未満という実績を持つ¹⁴¹。

¹³⁵ <https://www.startse.com/noticia/empreendedores/ceo-da-loggi-fabien-mendez-logistica-do-brasil>

¹³⁶ <https://g1.globo.com/economia/tecnologia/noticia/2019/06/05/brasileira-loggi-entra-para-rol-dos-unicornios-com-aporte-de-us-150-milhoes.ghtml>

¹³⁷ <https://www.madeiramadeira.com.br/confiavel>

¹³⁸ <https://endeavor.org.br/historia-de-empreendedores/madeiramadeira/>

¹³⁹ <https://www.istoedinheiro.com.br/startup-madeiramadeira-ganha-status-de-unicornio-apos-aporte-de-us-190-mi/>

¹⁴⁰ <https://www.crunchbase.com/organization/creditas>

¹⁴¹ <https://endeavor.org/entrepreneurs/creditas-raises-50-million-series-c-funding-round-participation-endeavor-catalyst-continue-reshaping-lending-brazil/>

2017 年の 12 月にはブラジルのベンチャーキャピタルであるカゼッキ・ベンチャーズ (Kaszek Ventures)、米国の投資会社であるクオナ・キャピタル (Quona Capital)、QED インベスターズ、エンデヴァー・カタリスト (Endeavor Catalyst)、国際金融公社 (IFC)、スウェーデンの投資会社であるヴォストック・エマージング・ファイナンス (Vostok Emerging Finance)、南アフリカのナスパーズ (Naspers) から 5,500 万ドルを調達し、2018 年 2 月にはサンタンデル銀行のベンチャーキャピタル部門で英国に本拠を置くサンタンデル・イノベンチャーズ (santander innoventures) と、同じく英国の投資会社アマデウス・キャピタル・パートナーズ (Amadeus Capital Partners) から 500 万ドルの調達を受ける。

ソフトバンクがリードした投資ラウンドにより、2019 年 7 月に 2.31 億ドル¹⁴²、2020 年 12 月に 2.55 億ドルの調達に成功した¹⁴³。

⑩メルカドビットコイン¹⁴⁴

創業年：2013 年

WEB：<https://www.mercadobitcoin.com.br/en/>

住所：Alameda Mamoré, 687 - conjuntos 303 - sala 03 - Alphaville Industrial - Barueri - SP

代表者：グスタボ・シャマチ (Gustavo Chamati)

従業員数：非公表

サービス概要： ビットコインやイーサリアムなどの暗号通貨やデジタル資産の売買を仲介するスタートアップ。2020 年にはブロックチェーン・トランスパレンシー・インスティテュート (BTI) が世界で信頼される 25 の取引所の一つに選出されている。国内サッカークラブであるヴァスコ・ダ・ガマと連携したサッカープレイヤーの移籍に関連して投資家に一部の報酬を還元するデジタル商品 (トークンと呼ぶ) も販売している。

起業からの経緯： 2013 年から当時規制が整備されていなかったビットコイン市場を開拓と多くの人に新たなサービスを提供する目標を掲げる。7 月時点で 280 万人の顧客を抱えている。2021 年 7 月にはソフトバンクから 2 億ドルの資金を調達し、同社の企業価値は 21 億ドルとなり、これは中南米で 8 番目に大きな企業価値を有するユニコーン企業となったと報じられている。

⑪ C6BANK

創業年：2018 年 (中央銀行による営業許可は 2019 年)

WEB：<https://www.c6bank.com.br/>

住所：Av. Nove de Julho, 3186 - Jardim Paulista, São Paulo - SP

代表者：マルセロ・カリム (Marcelo Kalim)

従業員数：非公表

サービス概要： オンラインバンクとしてクレジットカードやデビットカードの発行は勿論、グローバルアカウントを開設し、ナスダックやニューヨーク証券取引所の株式を売買、外国のファン

¹⁴² <https://www.startse.com/noticia/startups/creditas-aporte-softbank>

¹⁴³ <https://www.cnnbrasil.com.br/business/2020/12/18/novo-unicornio-creditas-recebe-aporte-de-us-255-mi-e-agona-vale-us-1-75-bi>

¹⁴⁴ <https://www.mercadobitcoin.com.br/en/quem-somos>

ド等にも投資可能な点を強みとする。特定の高速道路や駐車場に並ばずに利用するサービスや旅行代理店機能まで幅広いサービスを提供。個人のみならず、中小企業等の口座も開設できる。24 時間のカスタマーサポートも機能している。Banco24Horas のネットワークであれば現金の引き出しが無料で出来る。

起業からの経緯：BTG パクチュアルのメンバーであったマルセロ・カリム氏が従来の銀行とは異なるコンセプトの銀行を設立するため 2018 年に起業。中銀の営業許可を得て、透明性やユーザーフレンドリーなサービスを重視し、高額の手数料を積極的に削減したサービスを提供。同じくオンラインバンクのヌーバンクと差別化される点は、Banco24Horas のネットワークであれば現金の引き出しが無料で出来ることや国内のみならず海外の株式等へのアクセスが可能となる点である。サービスリリースから半年で 100 万人の顧客を獲得しており、2020 年の年次レポートでは 400 万の口座数に達したと発表された。145 2020 年に約 40 の投資家から合計 13 億リアル(2 億ドル超)の資金調達を行った他、2021 年には JP モルガンによる C6Bank の株式 40%取得で約 20 億どるの資金調達につながったと報じられている。¹⁴⁶

⑫ WILDLIFE

創業年：2011 年

WEB：<https://wildlifestudios.com/>

住所：R. Dr. Renato Paes de Barros, 1017 - Itaim Bibi, São Paulo – SP

代表者：ビートル・ラザルテ(Victor Lazarte)

従業員数：800 人以上

サービス概要：オンライン対戦も可能なテニスゲームであるテニスクラッシュやオンラインでのサバイバル対戦ゲームであるズーバをはじめとした約 60 種類のモバイルゲームを提供している。

起業からの経緯：サンパウロ大学で産業エンジニアを学習したラザルテ氏は JP モルガンでの勤務経験を経たのち同社を設立。最初にリリースした Racing Penguin というゲームのダウンロード数が 1 日で 10 万ダウンロードを記録し、当時 1 日あたりの記録として世界 2 位となる。2013 年にはフェースブックから年間最優秀ゲーム賞を受賞。2019 年には 100 カ国以上で 現在、60 種類のゲームを提供し、その合計ダウンロード数は 20 億回に達する。ブラジルのみならず、アルゼンチンや米国、アイルランドにもオフィスがある。2019 年にベンチマークがリードするシリーズ A の 6,000 万ドルの資金調達を行い企業価値 13 億ドルに、2020 年にはバルカンキャピタルがリードするシリーズ B の 1 億 2,000 万どるの資金調達を行い企業価値 30 億ドルとなる。

¹⁴⁵ <https://cdn.c6bank.com.br/c6-site-docs/c6-bank-annual-report-2020-eng.pdf>

¹⁴⁶ https://braziljournal.com/jp-morgan-compra-40-do-c6-diz-bloomberg?utm_source=CEOs+e+CFOs&utm_campaign=b783b42528-EMAIL_CAMPAIGN_5_5_2019_20_17_COPY_01&utm_medium=email&utm_term=0_5681c6aee4-b783b42528-427624861

6. ブラジルにおけるアクセラレータの現状

ブラジルの高等教育機関・研究機関であり中南米を代表するシンクタンクであるジェトゥーリオ・ヴァルガス財団(Fundação Getulio Vargas、以下「FGV」)の調査レポート「ブラジルのスタートアップ・アクセラレータプログラム(O PANORAMA DAS ACELERADORAS DE STARTUPS NO BRASIL)」¹⁴⁷によると、ブラジルではアクセラレータの活動は2005年頃から始まり、現在では約40社のアクセラレータが存在し、そのうちの約半数がサンパウロ州に集中している。

各社のアクセラレータプログラムは主に年2回開催され、各プログラムに参加するスタートアップは平均7社である。各プログラムの期間は平均6カ月だが、アクセラレータによって1カ月から1年間と異なる。

参加するスタートアップのビジネスフェーズはアイデア段階でまだ事業がはじまっていないものから、実際に商業活動を行っているスタートアップまで多岐に渡るが、約60%のスタートアップは売上が全く発生していない状況でプログラムに参加している。

アクセラレータによるスタートアップへの投資金額は4万5,000レアルから25万5,000レアルであり、スタートアップ内におけるアクセラレータの株式持ち分比率は平均で約8%である。

(1) リーガ・ベンチャーズ(Liga Ventures)¹⁴⁸¹⁴⁹

創業年：2015年

WEB：<https://liga.ventures/>

住所：Avenida Paulista 1374, 4o andar, São Paulo, SP

代表者：ホジェリオ・タマシア(Rogério Tamassia)

- ・ 大企業とスタートアップをつなぐことを目的とし、スポンサー企業の業種・テーマに合わせたプログラムを複数展開。米国、シリコンバレーのアクセラレータ、プラグ・アンド・プレイ テックセンター(Plug&Play Tech Center)のブラジル代表にもなっている。
- ・ プログラムの協賛企業はシスコ、メルセデスベンツ、ユニリーバ、サンゴパン、プリンクス、ポルト・セグーロ(Porto Seguro)、ヴェダシチ(Vedacit)、アエエセ・チエテ(AES Tietê)、ウェブモーターズ(Webmotors)、イートン(Eaton)、クミンズ(Cummins)、エロ(Elo)、グループ・パウ・ヂ・アスーカル(GPA)など
- ・ リーガ・インサイトとしてテーマごとにスタートアップをリストアップしたレポートを発行。過去の事例はリテール、自動車、人事、マーケティング、不動産、ヘルスケアなどの業界別のスタートアップについてまとめている。

(2) ワウ・アクセラドーラ・ヂ・スタートアップス(Wow Aceleradora de Startups)¹⁵⁰

創業年：2013年

WEB：<https://startup.farm/>

住所：Avenida Ipiranga 6681, Espaço Coworking Prédio 97, Porto Alegre, RS

創業者：アンドレ・ギニェッティ(André Ghignatti)

¹⁴⁷ <http://bibliotecadigital.fgv.br/dspace/handle/10438/18853>

¹⁴⁸ <https://liga.ventures/>

¹⁴⁹ <https://www.linkedin.com/company/liga-ventures/>

¹⁵⁰ <https://www.wow.ac/pt/>

- ・ プログラム参加企業数：57 社
- ・ 通算 800 万リアルをスタートアップに投資実行済み。3 号ファンドとして 600 万リアルを調達済み。
- ・ 150 の投資家とのネットワークを持ち、スタートアップ企業に対して資金、アドバイスとネットワーキングを提供する

(3) ダーウィン (Darwin) ¹⁵¹

創業年：2015 年
 WEB：https://darwinstartups.com/
 住所：SC-401, Km 04, s/n - Saco Grande, Florianópolis – SC
 創業者：マルコス・ミラー(Marcos Mueller)

- ・ プログラム参加企業数：41 社 (2019 年 4 月まで)
- ・ フィンテック、通信、ビッグデータソリューション系のスタートアップを中心に、持分 7%の代わりに 20 万リアルの投資額を行っている。
- ・ サンタカタリーナ州に本社を置き、アクセラレータプログラムの 7 割以上は同州の企業¹⁵²。

(4) ベンチャー・ハブ (Venture Hub) ¹⁵³

創業年：2017 年
 WEB：https://venturehub.se/
 住所：Avenida José dos Santos Marques, 28 – Parque das Quaresmeiras – Campinas, SP
 創業者：エリコ・パスタナ(Érico Pastana)

- ・ プログラム参加企業数：97 社
- ・ メンター170 人・投資家 50 人のネットワークを持ち、300 平米のコワーキングスペースとバックオフィス（法務・税務・人事・マーケティング）のサポートを提供している。
- ・ 2019 年より、ブラジル農牧研究公社 (EMBRAPA) と連携して、農業系スタートアップ向けアクセラレーションプログラムを共催している¹⁵⁴。

(5) 全国のアクセラレーター一覧¹⁵⁵

地方	所在地	名称	サイト
北部	アマゾニア州	ファブリック (FabriQ)	http://fabriq.com.br/
	セアラ州	ウェーブ・アクセラレータ (Wave Accelerator)	http://waveaccelerator.com/

¹⁵¹ https://darwinstartups.com/

¹⁵² https://abstartups.com.br/raio-x-startups-aceleradas-pela-darwin-startups/

¹⁵³ https://venturehub.se/

¹⁵⁴ https://www.embrapa.br/busca-de-noticias/-/noticia/45161075/embrapa-e-venture-hub-selecionam-startups-para-programa-de-aceleracao

¹⁵⁵ https://www.startupbrasil.org.br/

北東部	バイーア州	アセレラ・シマテック (Acelera Cimatec)	http://www.senaicimatec.com.br/en/empreendedorismo/
	ペルナンブコ州	セザール・ラブス (C. E. S. A. R. Labs)	http://cesarlabs.com/
		ジャンプ(JUMP)	http://www.jumpbrasil.com/
南東部	サンパウロ州	エース(ACE)	https://acestartups.com.br
		アセレラ・パートナーズ (Acelera Partners)	http://acelerapartners.com/
		バイタ・アセレラドーラ (Baita Aceleradora)	http://baita.ac/
		ジェマ・ベンチャーズ(Gema Ventures)	http://gemaventures.com/
		ローンチパッド (Launchpad)	https://developers.google.com/programs/launchpad/accelerators/
		リーガ・ベンチャーズ (Liga Ventures)	https://liga.ventures/
		キンテサ(Quintessa)	http://quintessa.org.br/
		スタートアップ・ファーム (Startup Farm)	https://startup.farm/
		シンドリームズ(Syndreams)	http://syndreams.com.br/
		ワイラ・ブラジル (Wayra Brasil)	http://wayra.org/
		ベンチャー・ハブ (Venture Hub)	https://venturehub.se/
	リオ・デ・ジャネイロ州	アウトソース・ブラジル (Outsource Brazil)	http://outsourcebrazil.com.br/
	ミナス・ジェライス州	アセレラ MGTI (Acelera MGTI)	http://aceleramgti.com/
		アセレラドーラ (Aceleradora)	http://aceleradora.net/
		テックモール(Techmall)	http://techmallsa.com.br/
	エスピリト・サント州	スタート・ユー・アップ (Start You Up)	http://startyouup.com.br/
南部	サンタ・カタリーナ州	ダーウィン(Darwin)	https://darwinstartups.com/
	リオグランデドスル州	ヴェンツイール(Ventiur)	http://ventiur.net/
		ワウ・アクセラドーラ・デ・スタートアップス(Wow Aceleradora de Startups)	http://wow.ac/

7. サンパウロのインキュベーションセンター、コワーキングスペース、シェアリングオフィスの現状

ブラジルの全国コワーキング・バーチャルオフィス協会¹⁵⁶によると、サンパウロ市内だけでも約 300 カ所のシェアリングオフィスが存在するという。サンパウロ市内では、新興企業のオフィスが多い市の西部、特にピニェイロス地区にコワーキングが多く開業しており、前述の 300 軒のうち 1 割が集中している。

2017 年だけでも軒数ベースで 20%増加したとされている。この増加の理由としては、2016 年の不動産不況により多くの家屋が空き家となり、その活用方法としてコワーキングスペースが注目されたことが指摘されている¹⁵⁷。このような背景から、サンパウロ市内のコワーキングは大企業が運営するものを除き、殆どが個別の事業者により運営されているものとなっている。

本項では主に企業がエコシステムの支援をしながら自社事業との連携を目的として運営しているものと、コワーキングスペース運営を本業として独立的に複数のロケーションでサービスを提供している代表的な企業を紹介する。

(1) 企業によるエコシステム支援としてのコワーキングスペース

① クーボ (Cubo)

WEB : <https://cubo.network/>

所在地 : Alameda Vicente Pinzon 54, São Paulo, SP

クーボは、イタウ銀行 (Itaú) とブラジルのベンチャー・キャピタルのヘッジポイント・イーベンチャーズ (Redpoint eventures) が運営する南米最大のテック系スタートアップが集まる拠点として、2015 年にサンパウロ市ヴィラ・オリンピア地区に開設された¹⁵⁸。大企業とスタートアップのビジネス創出上の連携を加速させることを目的として非営利組織として運営されており、様々な分野のスタートアップに物理的なオフィス空間と IT インフラを提供している。

ブラジルにおける企業によるエコシステム支援拠点の先駆けとなるもので、その後グーグル、ブラジルのブラデスコ銀行 (いずれも後述)、ERP のトットス (Totvs)、モバイル通信のオイ (Oi) などが続いてブラジル国内にスタートアップ向けのスペースを開設することになる。

クーボ (Cubo) は 2018 年 8 月に、合計 14 フロア、2 万平米のオフィススペースを備えた新施設に移転している¹⁵⁹。2020 年にリモートを含む入居企業の 475 社の総合売上は 44 億リアルで、前年比 1552%増とコロナウィルスの影響でデジタルソリューションの需要拡大を反映している¹⁶⁰。エコシステムに関連する様々な関係者が出会えるために、スタートアップ起業家、大企業、投資家、大学関係者が交流を持てる場所として各種イベントの開催なども行っている。

クーボへの入居に際しては、2019 年には 2000 を超えるスタートアップから応募があった。選考を通過し入居が決まった企業は、1 ポジションあたり 1,050 レアルの月額利用料を支払

¹⁵⁶ <http://site.ancev.org.br/>

¹⁵⁷ <https://vejasp.abril.com.br/cidades/coworking-we-work-expansao-mercado/>

¹⁵⁸ <https://cubo.network/>

¹⁵⁹ <https://www1.folha.uol.com.br/mercado/2018/08/cubo-espaco-de-emprededorismo-do-itaui-inaugura-nova-sede-e-deve-receber-ate-250-startups.shtml>

¹⁶⁰ <https://www.reuters.com/article/tech-cubo-2021-idBRKBN2A42L3-OBRIN>

う。

ブラジル国内主要都市でコワーキングスペースを提供する米国発のウィーワークとクーボが共同開発したオフィス空間に加え、380人を収容する講堂や、40～120人を収容可能な会議室などを備えている。

クーボに入居するスタートアップの選定主体はパートナー企業のメンターとなる事業経験の豊富な起業家・企業家で、入居後もスタートアップの成長を目的としたネットワーキング・講演・討論会等のイベントからなるプログラムを提供している。

② グーグル・キャンパス・サンパウロ (Google Campus São Paulo)

WEB : <https://www.campus.co/sao-paulo/pt>

所在地 : Rua Coronel Oscar Porto 70, São Paulo, SP

グーグル・キャンパスは、グーグルが起業家向けに提供するワークスペースで、サンパウロ以外では世界 6 都市(ベルリン、ロンドン、マドリッド、ソウル、テルアビブ、ワルシャワ)に開設されている。グーグル・キャンパス・サンパウロは、サンパウロ市パライゾ地区の地上 6 階建てのビル全体を専用施設として、2016 年 6 月に開設された¹⁶¹。

施設はフロア別に、コワーキング、スタートアップ・レジデンス、イベントスペースからなる。コワーキングは登録制で、WIFI を含め無料で利用できるほかカフェが併設されている。2018 年にはこの利用登録者数が 10 万人を超え、グーグル・キャンパスの中では世界最大規模となった。なお、利用者の安全性確保のため、2020 年 3 月よりコロナウィルスの影響ですべての活動が一時的にオンラインとなっている。

スタートアップ・レジデンスには専用のフロアが割り当てられ、スタートアップ・プログラムを受けている企業が入居する。ブラジルのアクセラレータ、スタートアップ・ファームもパートナー・アクセラレータとして常駐している。6 カ月毎に事業立ち上げ初期(サービス準備段階、あるいは売上規模が非常に小さい)のベンチャービジネスを対象としたレジデンス・プログラムが募集されている。ここで選抜されると、グーグルのエキスパート・ネットワークやグローバル展開プログラムや専用イベントに優先的に参加できるのに加え、6 カ月間のオフィス利用料も不要となる。一方で参加企業には、グーグル・キャンパスコミュニティで得ることのできた知識や経験を、SNS 等で共有・交流することにより、ブラジルのスタートアップ・エコシステムの発展に貢献することが求められている。現在は第 3 期 10 社が入居しており、第 1 期は 15 社、第 2 期は 12 社が参加していた。これら企業の実績として、2017 年には入居していたスタートアップの合計で 3000 万レアル以上の資金獲得に成功している。また、2016 年以降の入居企業の雇用創出数は 4,200 名余となっている。

イベントスペースでは、グーグル・キャンパス主催のワークショップ、講演会、映画鑑賞会、ハッピーアワーなどが企画されるほか、運営側の審査を経たうえで、どのメンバーでも 100 名までの収容可能な講堂を用いたイベントを企画・開催できる。

③ イノヴァブラ・アビタット (inovaBra habitat)

WEB : <https://inovabra.com.br/subhomes/habitat/>

所在地 : Avenida Angélica 2529, São Paulo, SP

¹⁶¹ <https://www.campus.co/sao-paulo/pt/>

イノヴァブラ・アビタット (inovaBra habitat) は、ブラジル銀行大手のブラデスコ (Bradesco) が運営する協働型イノベーションセンターで、2018 年にサンパウロ市ベラ・ビスタ地区に開設された¹⁶²。コワーキングスペースであるイノヴァブラ・アビタット (inovaBra habitat) は、イノヴァブラ事業の本部となる 10 階建ての 2 万 2,000 平米のビル内に設けられている。施設には 150 名収容可能な講堂に加えて、カフェや薬局、銀行などが備わっている。

コワーキングでスタートアップにより開発された製品・サービス・技術を、将来的に運営主体であるブラデスコ銀行が活用していくことが目的となっている。そのため、入居に際してはスタートアップの場合、ビッグデータ、アルゴリズム、ブロックチェーン、人工知能、IoT、オープン API、デジタル・プラットフォームなどの分野での技術的ソリューションを有すること、既にサービスがスタートしていて売上が上がっていること、さらに複数の市場分野に向けられた製品やサービスを提供していることが条件となっている。

規模にかかわらずテック系企業の場合、入居するスタートアップのビジネスメンターとしてソリューション構築の専門家を派遣し、他のスタートアップへのメンターとして貢献が求められている。IT 分野以外の企業でも、スタートアップ向けのビジネスメンターの派遣とビジネスチームの常駐に加え、年間で 3 回程度の概念実証やパイロット・テストを行なうことが可能な企業であれば入居対象となりうる。ブラジルの従業員向けプリペイドカード決済サービス大手のアレロ (Alelo)、アマゾン・ウェブ・サービス (AWS)、アイ・ビー・エム、マイクロソフト、オラクルといった IT プラットフォーム系企業もコミュニティに加わっている。入居の際のデスクあたりの賃料は、スタートアップの場合 700 レアル/月、大企業の場合は 2,600 レアル/月となっている¹⁶³。

コワーキングスペースには 180 社、約 1,500 名が入居可能となっている。前述のクーボと同様にウィークワークがパートナーとなっているが、ここではオフィスの空間設計上の協力に限らず、イノヴァブラ・アビタット (inovaBra habitat) 入居者が世界中のウィークワークの拠点を利用可能となっている。ハード面ではデジタルコンテンツ制作スタジオ、アイディア・試作ラボといったインフラを備え、ソフト面ではメンターの仲介によるネットワーク、ワークショップ、講演会なども企画されている。

(2) 政府機関によるインキュベーション・コワーキング支援

① サンタカタリーナ州技術協会 (ACATE)

WEB : <https://www.acate.com.br/>

所在地 : Rod. José Carlos Daux - SC 401, 4120 - km 4 - Florianópolis - SC

1986 年にサンタカタリーナ州 IT 企業の開発促進を目的として州政府が立ち上げた協会。同州の IT 企業の代表事業のみではなく、テクノロジーパークの運営等幅広く活動を展開している¹⁶⁴。

1998 年にインキュベーターのミジテク (MIDITEC) を創設し、現在まで 100 社以上のスタートアップのインキュベーションを行った。調査会社 UBI Global により、2018~19 年の世

¹⁶² <https://inovabra.com.br/subhomes/habitat/>

¹⁶³ <https://epocanegocios.globo.com/Empresa/noticia/2018/02/em-parceria-com-o-wework-bradesco-lanca-coworking-em-sao-paulo.html>

¹⁶⁴ <https://www.acate.com.br/historico/>

界インキュベーターランキングでミジテックは第5位となった¹⁶⁵。
なお、2017年よりオープンイノベーションを促進するリンクラブ（Link Lab）プログラムを運営しており、選定されたスタートアップヘコワーキングスペースを提供することによって、同プログラムのスポンサーである飲料大手アンベブ（Amvib）やエネルギー大手エンジー（ENGIE）等の大手企業とネットワーキング及び新規ビジネス開発を目的としている¹⁶⁶。

(3) コワーキングスペース・シェアリングオフィス自体を本業とする企業

① ウィークワーク（WeWork）

WEB：<https://www.wework.com/pt-BR/>
ブラジル内拠点数：29 拠点（2021年2月8日時点）

世界36カ国、119都市で739のシェアリングオフィスを運営する米国発のウィークワークは、ブラジルに2017年7月に進出した。サンパウロ市内パウリスタ大通りに開設された第1号オフィスは、当初はビルの2フロアを使用して運営されていたが、非常に人気が高く、現在は5フロアまで拡大している。2021年2月現在の拠点数はサンパウロ州に23拠点、リオデジャネイロ州に3拠点、ミナスジェライス州に2拠点、リオグランデドスル州に1拠点。

利用料金は、最も廉価なフリーアドレス（固定の席はなく、空席を自由に使える）の料金タイプで1,000リアル/月からで、1ヶ月単位で契約できる。オフィス区画としての入居も可能。通常時は入居者同士の交流イベントや、ハッピーアワーなども企画されている¹⁶⁷。

② リージャス（Regus）

WEB：<https://www.regus.com.br/>
ブラジル内拠点数：63 拠点（2021年2月8日時点）

ベルギーで創業し、現在はルクセンブルグに本拠を置くリージャスは、2021年2月現在、ブラジル国内8都市にてシェアリングオフィスを運営している。サンパウロ市内には、オフィスエリアのパウリスタ大通り、ピニエイロス、イタイン・ビビ、ヴィラ・オリンピア、ベヒーニ地区などを中心に31箇所を構えている¹⁶⁸。

様々な規模のレンタルオフィスを提供するほか、フリーアドレスもしくは固定アドレス式でのデスク単位からの借上げも可能。予約式の共用会議室やコピー・プリンタなどのオフィスサービスも利用可能。

③ ディストリート（Distrito）

WEB：<https://distrito.me/>
ブラジル内拠点数：4 拠点（2021年2月8日時点）

¹⁶⁵ <https://www.acate.com.br/noticias/incubadora-de-florianopolis-e-a-unica-da-america-latina-no-top-5-mundial/>

¹⁶⁶ <https://www.acate.com.br/en/programas/link-lab-en/>

¹⁶⁷ <https://www.wework.com/pt-BR/>

¹⁶⁸ <https://www.regus.com.br/>

ヂストリートは、監査法人 KPMG がパートナーとして参加するコワーキングスペースで、サンパウロ市内に 3 カ所、パラナ州クリチバ市に 1 カ所のシェアリングオフィスを運営している¹⁶⁹。

イノベーションと技術を活用した入居するスタートアップによる大企業向けの課題解決を支援すると同時に、スタートアップもメンターや大企業による育成プログラムを受けることができる。スタートアップと大企業が接点を持つためのハブとして特化している。また、グループ会社を通じてスタートアップへの投資も行う。

2020 年 11 月、ヂストリートの持株会社グロースパートナーズ (Growth Partners) は小売販売大手ビア・バレージョ (Via Varejo) から 16.6%の出資比率を受け、お互いのプラス関係になると同社ロベルト社長がコメントした¹⁷⁰。

④ ビア・オア・カフェ (Beer Or Coffee)

WEB : <https://beerorcoffee.com/coworking>

ブラジル内利用可能拠点数 : 約 450 拠点 (2021 年 2 月 8 日時点)

複数のコワーキングスペースがブラジルで増加している点に着目し、パートナーとなったコワーキングスペースを月額固定料金のクーポン制で利用できるようにしたスタートアップ¹⁷¹。このサービスでは、749 レアルで無制限で登録するコワーキングスペースが使える、前述のクーボ (Cubo)、グーグル・キャンパス、リージャスの一部スペースも利用可能である。ブラジル国内 140 都市以上にパートナー拠点を有し、サンパウロ市内だけでも 126 カ所ものコワーキングスペースが利用可能となっている。

¹⁶⁹ <https://distrito.me/>

¹⁷⁰ <https://forbes.com.br/forbes-tech/2020/11/via-varejo-acquire-participacao-no-distrito/>

¹⁷¹ <https://beerorcoffee.com/coworking>

8. ブラジルにおけるベンチャー・キャピタルの現状

ブラジルのベンチャー・キャピタル動向について、ブラジルのアクセラレータエースがスタートアップ関連データベース、クランチベースデータを基にまとめたレポート¹⁷²¹⁷³によると、ラテンアメリカ全体でのベンチャー・キャピタルによる投資額の 54%がブラジルに集中しており、ブラジル国内でのベンチャー投資額も 2013 年の 2.6 億リアルから 2017 年の 22 億リアル、そして 2019 年の 24.9 億リアルへ約 9.6 倍に増加している。特に増加傾向にあるのがシリーズ C¹⁷⁴以降の資金調達ステージである。ラウンド毎の平均投資額はシードで 320 万リアル、シリーズ A で 1,910 万リアル、シリーズ B で 4,630 万リアル、シリーズ C で 2.6 億リアルとなっている（2017 年時点）。

(1) ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド (SoftBank Latin America Fund) ¹⁷⁵

創業年：2019 年

WEB：<https://global.softbank/portfolio>

代表者：ソフトバンクグループ COO のマルセロ・クローレ (Marcelo Claure)、元 JP モルガン・マッキンゼーのシュー・ニャッタ (Shu Nyatta)、ヘッジファンドで南米スタートアップ投資の経験を持つパウロ・パソーニ (Paulo Passoni)

- ・ 所在地：東京都、米国フロリダ州マイアミ市、カリフォルニア州サンカルロス市、ブラジル国サンパウロ州サンパウロ市
- ・ 投資企業数：24 社
- ・ 主な投資企業：フィットネスジムサブスクリプションのジムパス (Gympass)、物流スタートアップのログギ (Loggi)、家庭製品 E コマースのマデイラ・マデイラ (Madeira Madeira)、担保型ローンのクレジットス (Creditas) など
- ・ 50 億ドル規模のファンドとして、アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコなど南米全域のスタートアップに投資。投資魅力として、大規模のコンシューマー市場、インターネット及びスマホの高い普及率、金融サービス・物流インフラの整備不足があり、イノベーションソリューションを実行できる分野が多い¹⁷⁶。
- ・ 主な投資分野は E コマース、金融サービス (Fintech)、ヘルスケア (Healthtech)、モビリティ、保険 (Insurtech)、不動産、物流 (Logitech)、教育 (Edtech)、ブロックチ

¹⁷² <https://acestartups.com.br/venture-capital-investimentos-brasil/>

¹⁷³ <https://news.crunchbase.com/news/report-vc-funding-in-latin-america-more-than-doubles-to-4-6b-in-2019/>

¹⁷⁴ 投資家が企業に対して投資をする段階。投資家により出資先企業の投資方針が企業の売上規模、顧客数、企業価値等で決まっていることが多く、その段階ごとに投資家側の市場セグメントが形成される。サービスをスタートした直後の段階をシードステージ、収益が上がり始めビジネスとして収益があがること、今後の成長期待が高まった段階での最初の本格的な投資ラウンドをシリーズ A と呼び、以降追加の出資を受けるたびにシリーズ B、シリーズ C とアルファベットの並び順で何度目の投資ラウンド化を表現するのが業界の通例だが、個々の資金調達ラウンドを数値等で表す明確な定義はない。

¹⁷⁵ <https://global.softbank/portfolio>

¹⁷⁶ https://group.softbank/en/news/press/20190307_0

ェーンと幅広い。

(2) モナシーズ(Monashees)¹⁷⁷

創業年：2005年

WEB：<http://monashees.com.br/pt-br/>

代表者：マッキンゼー、イタウ銀行、モニターグループ、ジェネラルアトランティックを経たエリック・アシェル(Eric Acher)と実業家のファビオ・イゲウ(Fabio Igel)

- ・ 所在地：サンパウロ州サンパウロ市
- ・ 投資企業数：73社
- ・ 主な投資企業：ライドシェアのノビノビ、クーポンサイトのペイシェ・ウルバノ、オンラインマーケティングのブーボックスなど
- ・ 投資分野：アグリテック、E-コマース、エドテック、フィンテック、ヘルスケア、マーケットプレイス、モバイル、SaaS(クラウドベースの各種ソリューション)など
- ・ ブラジル国内で最も早くベンチャー・キャピタルとして立ち上げた投資会社

(3) カゼッキ・ベンチャーズ(Kaszek Ventures)¹⁷⁸

創業年：2011年

WEB：<https://www.kaszek.com/>

代表者：南米のECサイト最大手メルカド・リブレ(MercadoLibre)の創業者であるニコラス・セカシ(Nicolás Szekasy)とエルナン・カザ(Hernán Kazah)

- ・ 所在地：サンパウロ州サンパウロ市
- ・ 投資企業数：89社
- ・ 主な投資企業：採用サイトのラヴ・マンデイ(Love Monday)、眼鏡のオンラインショップのエオチカ(eOtica)など
- ・ ブラジルを中心にラテンアメリカ各国に投資活動を行い、アルゼンチンのブエノスアイレス、メキシコのメキシコシティにも支社を持つ。

(4) ヘッジポイント・イーベンチャーズ(Redpoint eventures)¹⁷⁹

創業年：2012年

WEB：<http://rpev.com.br/>

代表者：南アフリカのIT大手ナスパーズでラテンアメリカのM&A担当でもあったアンダーソン・シーズ(Anderson Thees)

- ・ 2012年創業
- ・ 所在地：サンパウロ州サンパウロ市
- ・ 投資企業数：60社
- ・ 主な投資先：オンラインの不動産担保ローンを完結するクレジットス、コロンビア発の物

¹⁷⁷ <http://monashees.com.br>

¹⁷⁸ <https://www.kaszek.com/>

¹⁷⁹ <http://rpev.com.br>

流プラットフォームのハッピー (Rappi)、オンライン契約締結プラットフォームのクリックサイン (CLICKSIGN) など。

- ・ シリコンバレーの VC であるレッドポイント・ベンチャーズ (Redpoint Ventures) とイー・ベンチャーズ (e. ventures) がパートナーファンドとして案件発掘、資金調達等で協業している。

(5) アステラ・インベスチメントス (Astella Investimentos)¹⁸⁰

創業年：2008 年

WEB： <https://astellainvest.com/>

代表者：ルーセントテクノロジーズ、ノキアなどを経て立ち上げたエジソン・ヒゴナッチ (Edson Rigonatti)

- ・
- ・ 所在地：サンパウロ州サンパウロ市
- ・ 投資企業数：22 社
- ・ 主な投資先：デジタルマーケティング管理ツールのヘズウタード・デジタイス (Resultados Digitais)、ローン見積比較のサイト、ボン・パラ・クレジット (Bom Pra Crédito)、オンライン契約締結プラットフォームのクリックサイン (Clicksign) など。

(6) インベスト・テック (Invest Tech)¹⁸¹

創業年：2004 年

WEB： <http://www.investtech.com.br/>

代表者：ロイド・バンク、イタウ銀行、ペイン・アンド・カンパニーなどで 30 年以上の M&A 経験を有するマウリシオ・リマ (Mauricio Lima)

- ・ 所在地：サンパウロ州サンパウロ市
- ・ 投資企業数：16 社
- ・ 主な投資先：企業ブランドのクレジットカード発行・管理を行うアセッソ (Acesso)、企業向けにクラウドコンピューティングのプラットフォームを提供するスカイ・ワン (Sky. one) など。
- ・ 投資金額は 200-5000 万リアルと幅広く、ベンチャー投資に留まらずプライベートエクイティとして幅広い M&A を行う。

(7) ペルフォルマ・インベスチメントス (Performa Investimentos)¹⁸²

創業年：2005 年

WEB： <http://www.performainvestimentos.com/>

代表者：ボストン銀行、Banc Boston Capital での経験を有する Eduardo Grytz

- ・ 所在地：サンパウロ州サンパウロ市

¹⁸⁰ <http://astellainvest.com>

¹⁸¹ <http://www.investtech.com.br>

¹⁸² <http://www.performainvestimentos.com/>

- ・ 投資企業数：12 社
- ・ 主な投資企業：EC の物流ソリューションのマンダエ (Mandae)、医療機関の検索・予約システムのボア・コンスウタ (Boa Consulta) など。
- ・ 米国のインパクト投資の大手カプリア (Capria) からパートナーファンドとして選ばれて出資契約を締結するなど、インパクト投資 (金銭的リターンと並行して社会や環境へのインパクトを同時に生み出すことを意図する投資) も積極的に行う。¹⁸³

(8) ブラジル・ベンチャー・キャピタル (Brazil Venture Capital)¹⁸⁴

創業年：2014 年
 WEB：http://www.brazilventurecapital.net/jp/
 代表者：ペイン・アンド・カンパニー (東京・サンパウロ)、日本での起業を経験した日本人の中山充氏

- ・ 2014 年創業
- ・ 所在地：サンパウロ州サンパウロ市
- ・ 投資企業数：非公表
- ・ 投資企業：給与担保ローン締結プラットフォームのベースブルー (bxblue)、企業の立替精算ソリューションのエスプレッソ (Espresso)、実店舗内の顧客動向分析のメディアール・ソリューションズ (Mediar Solutions) など¹⁸⁵
- ・ ブラジルで活動を行う唯一の日系投資会社。まだ供給の少ないシードステージのブラジルのスタートアップに投資。

(9) その他のベンチャー・キャピタル¹⁸⁶

地方	所在地	名称	サイト
中西部	ブラジリア	セドロキャピタル (Cedro Capital)	www.cedrocapital.com/
南東部	サンパウロ州	アシンコ・キャピタル・パートナーズ (A5 Capital Partners)	www.a5.com.br/
		アベシーヂ・ベンチャーズ (ABSEED Ventures)	abseed.com.br/
		アウチヴィア・ベンチャーズ (Altvia Ventures)	www.altivia.net.br/
		アルペックス・キャピタル (ArpexCapital)	www.arpexcapital.com.br/
		アタカマ・ベンチャーズ (Atacama Ventures)	www.atacamaventures.com/
		ボヴサノヴァ・インベスチメン トス (Bossa Nova Investimentos)	www.bossainvest.com/

¹⁸³ <https://capria.vc/updates/impact-fund-managers-africa-south-america-join-capria-network/>

¹⁸⁴ <http://www.brazilventurecapital.net/>

¹⁸⁵ <https://www.dci.com.br/empreendedorismo/do-jap-o-para-o-brasil-em-busca-de-startups-1.679756>

¹⁸⁶ <https://www.abvcap.com.br/Download/Estudos/3947.pdf>

		ベーエヒ・オポチュニティーズ (BR Opportunities)	www.bropportunities.com.br/
		キャナリー(Canary)	canary.com.br/
		コンプラパル(Confrapar)	confrapar.com.br/
		デジエファイ・インベスチメン トス(DGF Investimentos)	www.dgf.com.br/
		ディストリート・ベンチャーズ (Distrito Ventures)	distrito.me/
		ドモ・インベスト(DOMO Invest)	www.domoinvest.com.br/
		イーブリックス・デジタウ (e.Bricks Digital)	www.ebricksdigital.com.br
		インジケーター・キャピタル (IndicatorCapital)	indicatorcapital.com/
		キック・ベンチャーズ (Kick Ventures)	www.kickgrupo.com.br/
		クーリンアンドパートナーズ (Koolen & Partners)	www.koolen.com.br/
		オリア・キャピタル(Oria Capital)	www.oriacapital.com.br/
		プロヴァンス・キャピタル (Provence Capital)	www.provencecapital.com.br/
		プウサル・インベスト(Pulsar Invest)	www.pulsar.com.br/
		エスピー・ベンチャーズ (SP Ventures)	www.spventures.com.br/
		スーパージョブス・ベンチャー キャピタル(SuperJobs Venture Capital)	superjobs.vc/
		ザ・ピタンガ・ファンド (The Pitanga Fund)	www.pitangainvest.com.br/ /
		トトス・ベンチャーズ (TOTVS Ventures)	www.totvs.com/ventures
		ヴォックス・キャピタル (Vox Capital)	www.voxcapital.com.br/
		イエロー・ベンチャーズ (Yellow Ventures)	www.yellowventures.com/
	リオデジャ ネイロ州	アンテラ・アセット・マネジメ ント (Antera Asset Management)	www.anteragr.com.br/
		ボザノ・インベスチメントス (Bozano Investimentos)	bozanoinvestimentos.com.br/
		コパカバーナハウス・ベンチャ ーズ(Copacabana House Ventures)	www.copacabanahouse.com.br/
		ジェラ・ベンチャーキャピタル	www.geraventure.com.br

		(Gera Venture Capital)	
		アイデアズネット(Ideiasnet)	www.ideiasnet.com.br/
		エミエセダブリュー・キャピタル(MSW Capital)	mswcapital.com.br/
	ミナスジェライス州	インシード・インベスイメントス(Inseed Investimentos)	inseedinvestimentos.com.br/
		トリアクシス・キャピタル(Triaxis Capital)	triaxiscapital.com/
南部	リオグランデドスル州	セーエヒペー・カンパーニャ・ヂ・パルチシパサオ(CRP Companhia de Participações)	www.crp.com.br/
		エフエイエヒ・キャピタル(FIR Capital)	www.fircapital.com/
	サンタカタリーナ州	ベゼプラン(BZPlan)	bzplan.bz/
		セーベンチャーズ(CVentures)	www.cventures.com.br/

9. ブラジルにおける外資系ベンチャー企業・スタートアップ企業の成功事例

市場の大きなブラジルではブラジル国外からもベンチャー企業、スタートアップ企業が多数参入している。特に米国のスタートアップはブラジルでも米国同様のサービスを提供すべく早い段階から進出している。また、日本企業によるブラジルのスタートアップへの投資事例も合わせて紹介する。

(1) 米国・南米の IT 関連企業の進出状況

① アマゾン(Amazon)¹⁸⁷ WEB : <https://www.amazon.com.br/>

アマゾン(Amazon)のブラジル進出は 2012 年にキンドルの電子書籍の販売から始まり、現在は書籍、電子機器、家電、携帯、ゲーム、ビデオレンタル、生活・キッチン用品、事務用品、洋服など 35 のカテゴリーを販売。2019 年 10 月時点で、2,000 万アイテムの商品が購入可能となった。世界 4 位の規模を誇るブラジルの化粧品市場などに事業拡大を目的に、2019 年 1 月より国内サイトではマーケットプレイス以外アマゾン自社も直接に商品を販売し始めた。

米モーニングスターの 2018 年 2 月の記事によると¹⁸⁸ブラジルの小売市場は約 3,000 億ドルだが、E-コマースが占める割合はその 5%。今後も年間 10%以上の成長が見込まれる。メディアによるとそのうちアマゾンでの購入額は約 10 億レアルと推測されている。また、2020 年 11 月には新たに倉庫 3 棟の開設を発表し、計 8 カ所の倉庫から国内 500 都市以上へ 2 日間以内の商品配達が可能となっている。なお、2019 年 9 月より有料会員制アマゾンプライムを展開し、自社商品の無料配達及びビデオ配信などを含むプライムにおける 1 カ月当たりの料金は 9.9 レアルで、アメリカの同サービスの料金(月当たり 12.99 ドル)と比較して非常に低コストで提供している¹⁸⁹。

② ネットフリックス(Netflix)¹⁹⁰ WEB : <https://www.netflix.com/br/>

オンラインの映像配信サービスのネットフリックス(Netflix)は 2011 年ブラジルでサービス開始当時、映画、ドキュメンタリー、テレビドラマを月 14.99 レアルで提供開始。現在では、ベーシックプランで 21.90 レアル、パドロンで 32.90、プレミアムで 45.90 レアル。2018 年 9 月時点で、洋画を含めた映画 2,926 タイトル、ドラマは 950 シリーズ、2 万 8,000 エピソードがブラジルで視聴可能。2016 年末の時点で、ブラジルのインターネットを通じ

¹⁸⁷ <https://veja.abril.com.br/tecnologia/amazon-inaugura-venda-de-artigos-de-moda-e-esportes-no-brasil/>,
<https://epocanegocios.globo.com/Informacao/Visao/noticia/2015/02/chegada-da-amazon-ao-brasil.html>,
<https://jp.reuters.com/article/amazon-com-brazil-cosmetics-idJPKBN1JA38V>

¹⁸⁸ <https://www.morningstar.co.jp/msnews/news?rncNo=1831881>

¹⁸⁹ <https://www.infomoney.com.br/consumo/amazon-prime-chega-ao-brasil-por-r-990-com-frete-gratis-prime-video-e-mais/>

¹⁹⁰ <https://veja.abril.com.br/blog/temporadas/netflix-inicia-hoje-suas-atividades-no-brasil/>,
<https://tecnoblog.net/260370/quantos-filmes-tem-na-netflix/>, <http://www.eajournals.org/wp-content/uploads/Is-Netflix-Dominating-Brazil.pdf>, <http://ofccolo.snl.com/cache/29063257.pdf>,
<http://www.digitaltvnews.net/?p=24899%E3%80%81><https://www.emarketer.com/Article/Netflix-Subscribers-Colombia-Pass-Half-Million-Mark/1011982>, <https://www.investors.com/news/technology/click/netflixs-success-in-brazil-shows-it-doesnt-need-disney/>, <https://exame.abril.com.br/blog/branding-consumo-negocios/a-origem-do-sucesso-do-netflix/>

た動画視聴時間の4割をネットフリックスが占めると米国の調査機関が報告。

2015年末までの間にブラジルでは400万近い人が登録をし、2015年にブラジルのネットフリックスは約11億リアルを売り上げた。2016年の末までに登録した利用者は約500万人に及ぶ。2020年の調査でブラジルの加入者数は1,600万人を超え、米国外で2位。

③ ウーバー(UBER)¹⁹¹ WEB : <https://www.uber.com/br/pt-br/>

ライドシェアサービスのウーバーはブラジルでサッカー・ワールドカップ(W杯)が開催された2014年5月にリオデジャネイロでサービスを開始。ブラジルでは、2020年の8月時点で100万人以上の運転手が登録(世界の全登録運転手の約5分の1)をし、ブラジルだけで2,200万人以上のユーザー数(世界全体の約5分の1)に達しており、ブラジル国内500以上の市でサービス提供。

ウーバーは、2016年12月にサンパウロでデリバリーフードを届けるウーバーイーツのサービスも開始した。また、2018年の9月には、低所得者層向けのサービスの強化を発表し、メモリー容量の少ない携帯電話機種を使う人のための容量の少ないアプリ、ウーバーライトや、クレジットカードを持たない人が現金を持たずに決済できるためのプリペイドアプリウーバーキャッシュを導入しサービスの幅を広げている。

④ エアビーアンドビー(Airbnb)¹⁹² WEB : <https://www.airbnb.com.br>

エアビーアンドビー(Airbnb)は2012年にブラジルに参入し、ブラジル国内での登録宿数は14万3000件に達している。オリンピックが行われた2016年にはリオデジャネイロが都市別ランキングで世界4位となり利用者が100万人を超えた。2018年の6月時点でもリオデジャネイロはロンドン、パリ、ニューヨーク、モスクワに続き5番目に利用者が多い都市である。

エアビーアンドビーのサービスにより2018年度のブラジルの国内総生産が77億リアル増加したと同社が発表。なお、コロナウィルスの影響により、2020年3月に28泊以上の予約が前年同月比24%増加したなど、ユーザーが感染防止対策のため移動や宿泊習慣を大きく変えている、と同社が分析した。

⑤ ハッピー(Rappi)¹⁹³ WEB : <https://www.rappi.com/>

コロンビアで2015年に創業したハッピーはスーパーマーケットやレストランで販売する様々なものを消費者の自宅に届けるデリバリープラットフォームを運営。創業2年後の2017年にはブラジルに参入した。2020年2月現在ではブラジル、コロンビアの他、アルゼンチン、チリ、メキシコ、ペルー、ウルグアイ、エクアドル、コスタリカを含めた南米9カ国にてサービスを展開している。

2016年に米アクセラレータ、Yコンビネーターのプログラムに参加し、同年10月には米ベンチャー・キャピタル、アンドリーセン・ホロウィッツから900万ドルの出資を受け、そ

¹⁹¹ <https://www.zdnet.com/article/uber-launches-new-app-and-digital-wallet-in-brazil/>, <https://www.uber.com/pt-BR/newsroom/fatos-e-dados-sobre-uber/>

¹⁹² <https://www.statista.com/chart/14986/active-airbnb-listings-in-major-cities/>, <https://www.datamark.com.br/en/news/2017/3/number-of-airbnb-users-in-brazil-reaches-1-million-in-2016-227247>/<https://www.valor.com.br/empresas/5151790/airbnb-acrescentou-r-25-bilhoes-ao-pib-brasileiro-em-2016-diz-fipe>

¹⁹³ <https://www.crunchbase.com/organization/rappi>, <https://panoramafarmaceutico.com.br/2018/08/23/rappi-comemora-1-ano-no-brasil-com-inumeros-pedidos-inusitados/>, <https://techcrunch.com/2018/08/31/rappi-raises-200m-as-latin-american-tech-investment-reaches-new-highs/>

の後も米ベンチャー・キャピタル、セコイア・キャピタル(Sequoia Capital)等から出資を受け、2018年には香港の投資会社、DST グローバルから2億ドル、2019年にソフトバンクより10億ドル、2020年投資信託協会ティー・ロウ・プライス (T. Rowe Price) から更に3億ドルの出資を受け、時価総額は35億ドルを超えていると推測されている。

(2) 日本企業によるブラジルのIT関連企業への出資状況

① ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド (SoftBank Latin America Fund) による出資

2019年3月にソフトバンクはラテンアメリカ向け50億ドル規模のイノベーションファンドを創成。2020年9月時点まで20社に20億ドルを投資した。ブラジルで投資された企業はフィットネスジムサブスクリプションのジムパス (Gympass)、物流スタートアップのログギ (Loggi)、家庭製品Eコマースのマデイラ・マデイラ (Madeira Madeira)、担保型ローンのクレジットス (Creditas) を含む。

今後はソフトバンクが新規スタートアップへの投資以外、既にポートフォリオに入っている上記企業などにも増資する予定¹⁹⁴。

② ソフトバンク及び関連会社¹⁹⁵によるノビノビへの出資 WEB : <https://99app.com/>

ソフトバンクは2017年5月、ブラジルのライドシェアサービスのノビノビへ1億ドルをソフトバンクビジョンファンドから出資。なお、ノビノビはソフトバンクが大株主でもある中国の同業、滴滴出行からも2017年1月に1億ドルの出資を受けていた。その後2018年1月に滴滴出行が企業価値10億ドルにて100%買収している。

ノビノビはブラジル国内1000都市以上で事業展開し、60万人以上のドライバーと約1,800万人の登録利用者を抱える。ウェブサイト閲覧数は月間約55万。企業向けのコーポレートサービスも行う。

③ 三井物産によるギーキー(Geekie)への出資 WEB : <http://www.geekie.com.br/>

ギーキーはブラジルで学校教育でのカリキュラム管理ソリューションを提供するスタートアップ。2018年10月時点で500万人以上の生徒と5,000以上の学校が利用。2013年ラテンアメリカのアイ・ビー・エムスマートキャンプで最優秀スタートアップにも選ばれた¹⁹⁶。三井物産は2014年12月に同社に出資参画した経緯があり、大学受験対策事業を共同開発¹⁹⁷。ITを活用した1人1人のレベルに合った教育(アダプティブラーニング)により、効率的且つ効果的な勉強を皆に提供し、ブラジルの教育格差の是正と基礎教育の強化を図る。

④ 電通グループによるポイントモビ(Pontomobi)、リダイレクト・デジタル・マーケティング

¹⁹⁴ <https://neofeed.com.br/startups/a-caca-dos-proximos-unicornios-softbank-ainda-tem-us-3-bilhoes-para-investir-na-al/>

¹⁹⁵ https://www.nikkei.com/article/DGXLASGN24H49_V20C17A5000000/, <https://www.crunchbase.com/organization/99taxi>, <https://techcrunch.com/2018/01/03/report-chinas-didi-to-buy-brazils-99-in-1b-deal-to-take-on-latin-america/>

¹⁹⁶ <https://career.mitsui.com/recruit/careerdevelopment/foreign.html>, <https://www-03.ibm.com/press/br/pt/pressrelease/42580.wss>

¹⁹⁷ <https://career.mitsui.com/recruit/careerdevelopment/foreign.html>

(Redirect Digital Marketing), ナヴェッグ (Navegg) への出資¹⁹⁸

電通は海外本社、電通イージス・ネットワークを通して 2015 年にポントモビとリダイレクト・デジタル・マーケティングを、2016 年にナヴェッグ (Navegg) を買収した。

ポントモビ (Pontomobi) は 2007 年に設立され、モバイルマーケティング領域全般のソリューションを提供する企業。モバイル領域においてフルサービスを提供するブラジル有数のモバイルマーケティング・エージェンシー。企業や商品・サービスに関するモバイル戦略の策定やコンサルティング、ウェブサイトの構築やアプリ・ゲーム開発のほか、自社で開発したモバイルマーケティング専用プラットフォームを活用した各種ソリューションを提供。

リダイレクト・デジタル・マーケティング (Redirect Digital Marketing) は 2007 年に設立され、デジタル技術を活用したクリエイティブやコンテンツ制作、デジタルメディアやソーシャルメディアを活用した調査やキャンペーンの実施、パフォーマンス・マーケティングや SEO など幅広いサービスを提供。

ナヴェッグ (Navegg) は 2009 年に設立され、オンライン・オーディエンスデータを提供するデータ・マネジメント・プラットフォーム (DMP) を管理・運営する企業。最大の強みは、媒体社や有力サイトとの強固な協力関係をもとに、毎月 100 億件を超えるオーディエンスデータの蓄積・分析を行っている点。ブログ、ポータルサイト、価格比較サイト、E コマースサイトをはじめ 10 万を超える内外のサイトと提携してブラジル最大規模の DMP を構築し、媒体社や企業によるマーケティング活動を支援。また、これらのデータを分析・活用した CRM (顧客管理ソリューション) 領域での戦略コンサルティングも行う。

⑤ ブラジル・ベンチャーキャピタルによるアルパック (ARPAC) への出資

WEB : <http://www.arpacbrasil.com.br>

アルパックは、人手や飛行機等での散布では効率の悪い局所的な農薬散布や益虫散布をドローンを使って迅速、的確に実現。2017 年には独化学大手の BASF とエースが行ったアクセラレーション・プログラムに参加、2018 年にはブラジルの日系投資会社、ブラジル・ベンチャー・キャピタルから出資を受ける。

また、2019 年にブラジルのエンジェルインベスター、ブラジルの投資ハブ MOR キャピタル及び日本のドローン特化型ベンチャーキャピタルであるドローンファンドより 130 万レアルの出資を受けた。ドローンファンドとして、ブラジル企業への初投資となった¹⁹⁹。

¹⁹⁸ <http://www.dentsu.co.jp/news/release/2015/1015-006270.html>,

<http://www.dentsu.co.jp/news/release/2015/0728-004104.html>, <http://www.dentsu.co.jp/news/release/2016/0112-008620.html>

¹⁹⁹ <https://startup.com.br/2019/10/startup-de-drones-para-agricultura-recebe-aporte/>

10. サンパウロにおける主なスタートアップ向けイベント情報、情報媒体

サンパウロを中心にブラジル各地でスタートアップ関連のイベントは多数開催されており、イベントも「スタートアップ」といった大括りなものに留まらず、業種や地域などのテーマをもって開催されるものが増えてきている。下記に代表的なイベントを紹介する。

(1) スタートセ (StartSe) の主催イベント

WEB : <https://startse.com>

スタートセはスタートアップのニュース・情報ポータルサイトを運営するとともに、起業家向けに様々なサービスを提供する。以下に一部を紹介する。

- ・ 事業フェーズ毎に対応した無料の教材の提供
- ・ 起業家と企業・投資家・関係者との関係構築のためのスタートアップの選別プログラムの情報の提供やテーマ別グループディスカッションの開催
- ・ スタートアップがスタートセのサイト内にプロフィールを作成しスタートセコミュニティ内で紹介するサービス
- ・ 特定の国やテック系分野を対象とした国内外ミッション(1年に4~8回程度)
- ・ 分野に関係する企業関係者を集めたイベントが企画されている²⁰⁰。

一例として、2020年前半にはシリコンバレー、中国への視察ミッションが実施されているほか、国内では投資家によるスタートアップ育成講座、フィンテックに関するオンラインイベントが案内されている。

(2) エヒ・デ・サミット (RD Summit)

2018年のイベントサイト <https://rdsummit.com.br/>

エヒ・デ・サミットは、南米最大のデジタルマーケティングのイベントで、2013年より毎年ブラジル南部のフロリアノーポリス市で開催されている。2020年はコロナウィルスの影響で中止されたが、2021年には再開が予定されている²⁰¹。

テーマは、マーケティング基礎編、マーケティング上級編、多様なマーケティングコンセプト、コンテンツ制作、運営と戦略、人材開発、顧客成功事例、技術、販売、仲介業などに分かかれ、3日間で150名以上の国内外のリファレンスとなる招待者による講演が行われた。

招待者の所属先の例としては次の通り：NASA、ヘズウタード・デジタリス、インフルエンス・アット・ワーク (Influence at Work)、ウィニング・バイ・デザイン (Winning by Design)、ヌーバンク (Nubank)、フェイスブック (Facebook)、エンデバー・ブラジル (Endeavor Brasil)、リンクトイン (Linkedin)、ペイパル (PayPal) など。講演会に加えネットワーキングイベントに加え、約100社が出展するビジネス展示会も併設された。

(3) ケース (CASE)

2018年のサイト : <https://case.abstartups.com.br/>

²⁰⁰ <https://startse.com/eventos>

²⁰¹ <https://rdsummit.com.br/>

ケースはブラジルスタートアップ協会 (Abstartups) が主催するスタートアップ経営者向けのイベントで、2020年10月19～23日に第7回がオンラインで行われた²⁰²。

2020年には2万5,000名以上の企業家、投資家、CEOが参加し、ゲストスピーカーには、ノビノビ、アンベブ、ジムパス、アイフージ、フェイスブックなどの企業代表者が参加した。

(4) ABVCAP(ブラジル・プライベートエクイティ・ベンチャー・キャピタル協会)主催イベント

WEB : <https://www.abvcap.com.br/>

サンパウロに本部を置く ABVCAP(ブラジル・プライベートエクイティ・ベンチャー・キャピタル協会)は、年間を通じてカンファレンスやテクニカル会合、ウェビナー、講習会などを開催している。

なかでもコンGRESSO ABVCAP が大きなイベントで、2020年度は10月20、22、27、29日にオンラインで開催された²⁰³。ファンドマネージャー、機関投資家、規制当局関係者、政府関係者、国内外のアドバイザーが集い、ブラジルのプライベートエクイティ産業のトレンドや見通しに関する意見交換の場となっている。

(5) テックスターズ・スタートアップ・ウィークエンド (Techstars Startup Weekend)

スタートアップ・ウィークエンドは、米国のアクセラレータテックスターズにより2007年から世界各地で開催され、ブラジルでは2011年から2020年まで開催されている。2019年に国内119都市で188回のイベントがテックスターズによって開催され、ワークショップ、トレーニング、講演、パネルディスカッションを通じた知識・経験・グッドプラクティスの共有が図られている。²⁰⁴

(6) ブラジル・ジャパン・スタートアップ・フォーラム (Brazil Japan Startup Forum)²⁰⁵

WEB : <http://www.brazilventurecapital.net/jp/>

ブラジルで唯一の日本の投資家・企業を対象にしたスタートアップ関連イベントで、2018年にサンパウロ市内にて第一回が開催された。主催はブラジル・ベンチャー・キャピタル (Brazil Venture Capital)。2019年に第2回が開催され、2020年はオンラインでテーマ別に複数回開催。

ゲストスピーカーには、日本・ブラジル双方からベンチャーキャピタル、エンジェル投資家、スタートアップが多数参加している。次回は2021年下旬にオンライン開催予定。

(7) 100 オープンスタートアップ (100 Open Startups) の主催イベント

WEB : <https://www.openstartups.net/site/oiweek/>

2008年より、大手企業・スタートアップ間の新規ビジネス機会創出のためのプラットフォーム

²⁰² <https://case.abstartups.com.br/>

²⁰³ https://www.linkedin.com/posts/mcmcorporate_abvcap-experience-mcm-corporate-activity-6731985840781701120-xsE_, <https://www.abvcap.com.br/eventos/eventos-detalle.aspx?c=pt-BR&cat=1&id=959>

²⁰⁴ <https://www.techstars.com/>

²⁰⁵ <http://www.brazilventurecapital.net/jp/brazil-japan-startup-forum-2018/>

ムを運営する 100 オープンスタートアップは、オープンイノベーションウィーク (OiWeek) を開催している²⁰⁶。

2020 年 12 月 7~11 日にはジェトロ・サンパウロ事務所とオープンイノベーションウィークブラジル・ジャパン (OiWeek Brazil-Japan) をオンラインで共催した。ヘルステック、モビリティ・物流、インシュアテック、アグリテックにおける最先端のトレンド、成功事例と現地のデジタルイニシアティブが紹介された。当地進出日系企業からはトヨタ自動車、損害保険ジャパン、三菱商事、古河電気工業などが参加²⁰⁷。2021 年 9 月にも第二回が実施される予定。

(8) チャイナ・デイ (China day)²⁰⁸

2018 年のサイト : <https://lp.startse.com.br/evento/chinaday-conference/>

ブラジルで開催される中国のイノベーションと技術に関する最大のイベントで、2018 年 10 月 24 日にサンパウロ市内にて開催された。主催はスタートセ。

ゲストスピーカーには、アリババ、リャンリャンペイ、ハネルジー (Hanergy)、コインベネ (Coinbene)、クレジゴ (Credigo) といった中国企業の代表者らが招かれている。

(9) スーパーロジカ・エクスペリエンス (Superlógica Xperience)²⁰⁹

2020 年のサイト : <https://xperience.superlogica.com/>

スーパーロジカは企業向けにクラウドベースの各種 ERP ソリューションを提供する企業であるが、関連するスタートアップとともに、SaaS に特化したイベント、スーパーロジカ・エクスペリエンスを行っている。2017 年には参加者 1,300 人、2018 年には 2,400 人、2019 年には 3,500 人が参加しており、SaaS 関連のイベントとしてはラテンアメリカ最大級のビジネスイベントと謳っている。2020 年度はコロナウィルスの影響で中止され、2021 年は再開が予定されている。

(10) 各アクセラレータの開催イベント、ホームページ、ニュースレター

ブラジルのアクセラレータは、スタートアップ向けにイベントを積極的に開催、情報提供をしている。投資先のスタートアップの啓蒙や情報提供、アクセラレーション・プログラムに参加するスタートアップや協賛する企業を惹き付けることが主な目的である。また、各種イベントのゲストスピーカーとしてアクセラレータが招かれ、その告知を行うことも一般的であるため、本レポートで取りあげた各アクセラレータのホームページ、SNS、ニュースレターでは自社が開催するイベントに留まらず、様々なイベント情報を収集することができる。

²⁰⁶ <https://www.openstartups.net/site/sobre.html>

²⁰⁷ <https://www.openstartups.net/site/oiweek/2020/dez/index-en.html>

²⁰⁸ <https://lp.startse.com.br/evento/chinaday-conference/>

²⁰⁹ <https://xperience.superlogica.com/>

11. 最近のブラジル規制・政府関連動向

ビジネス環境の改善に向けて、ブラジル政府が国民、スタートアップ企業、零細小企業を対象に数多くの政策を実施している。以下、最近は話題となったその政策の一部を紹介する。

(1) スタートアップ法 (Marco Legal das Startups)

6月2日、補憲法 (PLP) 182号 (通称: スタートアップ法) が公布された。8月31日から施行される。同法により、スタートアップ企業や革新的な起業、個人投資家による起業家への資金提供などに法的根拠が与えられることになる。同法は、下院議会と連邦政府が提出した PLP146号と PLP249号に基づき作成された。同法で扱うスタートアップ企業の定義は、前年の売上げが1,600万レアル (約3億5,200万円、1レアル=約22円) 未満、企業設立10年以下、ビジネスモデルの革新性を定款などで満たしている企業。また、エンジェル投資家は投資先のスタートアップ企業の議決権を有しないものとして、スタートアップ企業の債務責任を原則負わないことが認められる。ファイナンス目的に集中した投資が可能になり、これまで問題だった投資に伴う企業の債務やガバナンスのリスクが排除できることになるため、特にエンジェル投資家によるブラジルのスタートアップ投資がこれまで以上に活発になる施策と言える。なお、税制のメリット以外として、「サンドボックス」環境が制定され、国家衛生監督庁 (ANVISA) や国家電機通信庁 (ANATEL) を含む監督庁の規定が特定のスタートアップ製品に対して一時的に緩和され、新製品の自由な市場テストの活用が可能となる。また、この法案の対象となるスタートアップ企業の特許及び商標出願は、登録簡易化システム (Redesim) を通じて、ブラジル産業財産庁 (INPI) において審査が優先される²¹⁰。

(2) 中銀主導の即時決済システム「ピックス」 (PIX)²¹¹

ブラジル中央銀行が目標設置した金融市場のデジタルトランスフォーメーションアジェンダ (Agenda BC#) の一環として、2020年11月に即時決済システム「ピックス」が導入された。

このシステムの導入により、ブラジル国民はいままで銀行を通じた取引 (送金・カード決済・振り込み) を携帯電話・スマートフォンでできるようになった。中銀は、主に従来の決済や取引に要する時間とコストを削減する目的で開始したが、市場競争力の向上、リテール市場のキャッシュレス加速化、金融包摂促進、情報処理安全確保が期待されている。

ピックスによる取引は、24時間365日いつでも可能で、銀行口座の情報を開示せず登録されたピックスキーで決済が行われる。一口座当たりピックスキー登録の条件は、個人の場合5件、法人の場合20件。

対象とするユーザー取引は、P2P (個人同士)、P2B (個人と商業施設・金融機関の間)、B2B (商業施設・金融機関同士)、税務支払いなど政府機関を囲む P2G・B2G 取引。なお、取引金額の上限は制定されていないが、金融機関はマネーラウンドリーなどの防止対策として設置できる仕組みが整えている。

2021年7月31日時点までに、中央銀行で登録されたピックスキーの数は、2億8,222万件以

²¹⁰ <https://www.camara.leg.br/noticias/715720-camara-dos-deputados-aprova-marco-legal-das-startups/>

²¹¹ <https://www.bcb.gov.br/estabilidadefinanceira/pix>

上の個人キー、1,193万件以上の法人キーで約計3億件となっている²¹²。

(3) 有限会社の規制変更

有限会社（LTDA）に関して、第2章で述べたように、今後は規制緩和によって多くの零細・小企業が優遇対象となる。

・2019年9月より個人有限会社（SLU）という会社形態が設置され、個人1人で立上げ出来るようになり²¹³、最低資本金の制限もない。

・2019年4月に株式会社法の改正により、年度財務諸表の公告をインターネットのみで可能となる。また、公告不要の対象も、資本金100万リアル未満及び株主20人以下の未上場株式会社だったものが、1,000万リアル未満まで拡大される。同改正は2022年1月より施行予定²¹⁴。

²¹² <https://www.gov.br/pt-br/noticias/financas-impostos-e-gestao-publica/2021/01/pix-conta-com-mais-de-133-milhoes-de-chaves-cadastradas>

²¹³ https://www.sebrae.com.br/sites/PortalSebrae/ufs/sp/conteudo_uf/quais-sao-os-tipos-de-empresas,af3db28a582a0610VgnVCM1000004c00210aRCRD

²¹⁴ <https://www.camara.leg.br/noticias/556400-sancionada-lei-que-dispensa-de-publicacao-balancos-de-empresas-com-ate-r-10-milhoes/>

12. ブラジルのエコシステムのポテンシャル

日本企業がブラジルのスタートアップ・エコシステムとどのような目的でどのような関わり方ができるのか、いくつかの方向性を論じたい。

同じ日本企業でも既存事業の日本での状況やスタートアップと関わる目的によって取り組み方は大きく異なるので、ここでは以下の二軸で4つの象限に企業の状況をグループ化した。

1. 日本国内で既に成功となる事業構築ができているか否か
2. ブラジル市場に参入して事業規模を拡大することが優先的な目的か否か

		日本での事業構築状況	
		構築済みである	構築済みでない
ブラジル市場への参入	ブラジル参入による事業拡大が優先	A：海外進出	C：リープフロッグ
	ブラジルでの事業拡大が最優先でない	B：シード探索	D：テストベッド

はじめに各象限の企業グループについてのイメージを具体例も含めて整理したい。

- A：海外進出—既に日本やグローバル市場で十分な規模に成長している日本企業がブラジル市場に参入するきっかけとしての買収を含む資本提携を目的とする。
- B：シード探索—日本やグローバル市場で十分な規模に成長している日本企業が新規事業や技術革新のタネを求めてスタートアップとの提携を含めた、資本提携も可能性としては検討するがマストではない。
- C：リープフロッグ—日本でもまだ立ち上がっていない事業だが、ブラジルを事業の立上げを行う市場として選択。新興市場向けの製品・サービス立上げを行うための市場としての魅力から参入を行う。
- D：テストベッド—日本でもまだ立ち上がっていない事業だが、ブラジルで事業の実証実験を行いつつ経験値をためるために選択。収益機会としてではなく、あくまで技術検証の場としてブラジルを選択しているため、主要なターゲット市場はブラジルではない場合も考えられる。

この中でボリュームゾーンとなるのがAの海外進出であろう。日本企業に限らず、海外企業によるブラジルのスタートアップ買収が端的な例となる。またスタートアップの買収は、必ずしも過半数以上を取るM&A的な買収が必須ではなく、スタートアップの段階的な資金調達に合わせてマイノリティー出資をしておくことがベターである。

その理由としては以下の2点があげられる。

1. スタートアップ企業は事業年数も浅いこともあり、一般企業のデューデリジェンスに必要なデータが相対的に少ないことが多い。内部情報を全く知らないで買収するのはリスクが高い。
2. スタートアップは人が命とも言われる。成長中の事業を突然買収した場合には創業者チームが十分に事業の内容を引き継ぐ前に事業から実質的に離脱してしまうことも少なくない。したがって日本企業は有望なスタートアップを常時リストアップし、スタートアップ自体、もしくは当該スタートアップに既に出資済みのベンチャー・キャピタル等の投資家とネットワークを作っておくことで、スタートアップ側が²¹⁵ステージごとに資金調達を行うタイミングで声がかかる状況を作っておくのが望ましい。

次に日本企業のニーズとして高いのがBのシーズ探索であろう。オープンイノベーションと言うフレーズが一般的に使われるようになって久しいが、新しい技術・事業を必ずしも社内のR&Dセンターに依存せず、社外の研究機関、スタートアップに見出したいという日本企業は多い。また、国内に留まらず海外で生み出される新技術や新ビジネスモデルにもアンテナを張っておく、という動きが広がりつつある。これまでは米国を中心とした先進国に偏重していたようにも思えるが、昨今ではIT関連のオンラインで完結する技術・サービスはもちろん、現実社会を絡めたリアルテックと呼ばれる領域にもベンチャー投資が流入する傾向が強まり、スタートアップ自体が大きな資本を持たなくとも新技術の開発が可能で環境が整いつつあることもあり、新興市場も含めて新たな動きをキャッチするアンテナを世界中に張っておきたいという日本企業のニーズは高い。

具体的にはシェアリングエコノミーが実際にどう広がっていくのか、無店舗型銀行・決済サービスがどのように広がっていくのか、という日本での規制緩和に備えてあらかじめ他国事例を見ておきたいというニーズもこのグループに含まれる。

Cのリープフロッグ型は日本の起業家が新興国にターゲットを置いて事業を立ち上げるケースも最近では目にするようになった。日系のブラジル・ベンチャー・キャピタルによると、日本のスタートアップで、低価格帯のスマートフォンを開発したり、仮想通貨を利用した国際間の貿易決済ソリューション、更にはマイクロファイナンスといった、そもそも最初から日本を主要なターゲット市場とみていないサービスを始めている日本人起業家からの問い合わせがあるという。また、画像認識技術を用いたセキュリティ関連の日本のスタートアップ企業は競争の激しい日本市場を出て、技術力の高さでブラジル市場への進出を着々と進めている。

こうした起業家にとっては、ブラジルを最初からターゲット市場の一つとして捉えて、市場調査等を行うのは理にかなっている。ブラジル市場は世界的に見ても大きく、成長余地があるにも関わらず、まだ中国や欧米企業の進出が限定的な市場ともいえるので、日本のスタートアップが早くからブラジル市場を目指してビジネスデベロップメントを行うのは採り得る戦略的オプションであろう。しかしスタートアップの限られたリソースを現地に投入するのが難しいこともあり、現地出張事務所や代理店となるような機能を低コストで持てるかが今後の課題となるであろう。

最後のテストベッド型は特に日本の規制が厳しいエリアにおいてブラジル市場を実証実験の場として活用できるか、という視点でのアプローチである。こうした日本企業は必ずしもブラジル市場を魅力と考えているわけではなく、既にグローバルにプレゼンスがある中で、自社の技術・製品をブラッシュアップしたいというニーズが根底にある。しかし、日本国内でのブラッシュアップを行うためには該当する規制の整備に時間がかかり、対象となるエンドユーザーが日本国内では限られてしまうなどで時間がかかることへの危機感がある。

ブラジル・ベンチャー・キャピタルによると、自動車関連の技術を有する日本の大手メーカーがブラジルのスタートアップと連携してブラジル市場での事業開発ができないか、農業関連の大手日本企業が新技術をブラジルマーケットでテストしたいという相談を受けているという。

顕在化しているニーズとしては A の海外進出型、B のシード探索型が大きいと思われるが、今後増えてくるであろうニーズとして C のリープフロッグ型や D の テストベッド型についても日本とブラジルの間で情報共有ができる仕組みを持つておくことは今後の日本企業にとって重要だと思われる。

なお、ジェトロは、世界各国のスタートアップ・エコシステム先進地域において、海外進出あるいは海外での資金調達を目指す日系スタートアップに対し、ブリーフィングやメンタリング、コワーキングスペースの提供等を無料で行っている。ジェトロ・サンパウロ事務所は、ブラジル・ベンチャー・キャピタルと提携し、2020 年 6 月よりブラジルで「ジェトロ・グローバル・アクセラレーション・ハブ」を設置しており、その利用企業数は既に 20 社超となっている。

ブラジルは既に市場規模が大きく、今後も成長を続けていく市場でもある。しかし、このような市場環境が理解されていないこと自体が日本に向けてのブラジルの情報量が不足していることを物語っているとも言えよう。

20 年程度の時間軸で見るとブラジルは GDP でも日本を超えていく市場である。過去に中国に日本が GDP で抜かれて、今となっては IT 関連事業では日本よりも発展しているという声も多い。同じことが起きるかもしれない国に対してアンテナを張っておくことの重要性は疑う余地がなく、ブラジルも間違いなくその中の優先順位の高い国である。

レポートをご覧いただいた後、アンケート（所要時間：約1分）にご協力ください。

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20200045>



本レポートに関する問い合わせ先：

ジェトロ（日本貿易振興機構）

海外調査部 米州課 中南米班

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

Tel. 03-3582-4690

E-mail: ORB-latin@jetro.go.jp